

令和4年度
京都市上下水道事業

経営評価

[令和3年度事業]

カラー版はこちらから
御覧いただけます！



京都市上下水道局 経営評価

検索



2021

はじめに

現在、全国の上下水道事業体は老朽化した管路・施設の老朽化とその更新に係る財政負担の増大、頻発・激甚化する災害への対応などの課題を抱えています。

京都市においても、水需要の減少に伴い収入が減少する中で、これらの課題に取り組んでいるところですが、このような状況の下では、事業の方向性をしっかりと見定め、経営基盤の強化を図りながら長期的な視点に立った経営を行うとともに、第三者の視点も取り入れて成果を客観的に評価し、継続的な改善につなげていく必要があります。

また、同時に、経営状況や取組を市民・事業者の皆さまにお伝えし、御理解いただくこと等により、皆さまとのきずなを深め、生活を支える重要なライフラインを共に守り続けられるようにしていくことが重要になります。その意味で本経営評価はチェックの役割に留まらない、皆さまとの大切な対話のツールともなるべきものと考えています。

京都市上下水道局では、平成30年3月に経営戦略である「京（みやこ）の水ビジョン—あすをつくる—」及び「中期経営プラン（2018-2022）」を策定し、着実に事業を進めてまいりました。

一方で、この間大きく減少している水需要は、新型コロナ前の水準に回復しておらず、水道料金・下水道使用料収入はプランを大幅に下回る見込みです。加えて、本市の一般会計の危機的な財政状況を踏まえ、一般会計からの繰入金（出資金）を一部休止するなど、本市の上下水道事業は大変厳しい経営環境に置かれています。

そのような状況であっても、経営評価の結果を踏まえながら、絶え間ない経営努力を行うとともに、本年4月に設置した「施設マネジメント推進プロジェクトチーム」における事業量・事業費の更なる平準化に向けた検討など、先を見据えた取組を着実に進め、京都の未来を支える持続可能な上下水道の実現を目指してまいります。

京都市公営企業管理者上下水道局長
吉川 雅 則



エスディージーズ

上下水道局はSDGsを推進しています



SDGs未来都市
京都

SDGs（エスディージーズ）は、「誰一人取り残さない」を合言葉に、人権、格差是正、教育、環境、平和など、持続可能な社会の実現を国際社会全体で目指す17の普遍的なゴール（目標）と、169のターゲット（達成基準）であり、実現に向けて各国政府だけでなく、地方公共団体や企業等の主体的な取組が求められています。

SDGsの理念や方向性等については、「京（みやこ）の水ビジョン—あすをつくる—」及びその前期5か年の実施計画「中期経営プラン（2018-2022）」等と共通するものであり、上下水道局は、ビジョン及びプランのもと、SDGsの達成に向けた取組を推進しています。

第2章（13～22ページ）では、令和3年度の事業推進計画の進捗状況について関連するSDGsのゴール（目標）のロゴを示しています。



目次

(本書の構成)

京都市上下水道局マスコットキャラクター
ホタルの澄都(すみと)くん



1年間の
取組や成果を
ご説明します！

経営状況

上下水道事業を取り巻く経営環境 1

ハイライト

令和3(2021)年度の事業推進の状況 3

令和3(2021)年度の数値目標達成状況 5

令和3(2021)年度の事業評価一覧及び総括 7

経営戦略と
経営管理
(ガバナンス)
の仕組み

第1章 上下水道事業の経営管理 9

1 経営評価の目的と位置付け 9

2 第三者の視点による点検 10

ビジョン等に
掲げる30の
取組項目や
各経営指標に
対する評価

第2章 経営評価 11

1 各取組の評価(取組項目評価) 12

視点① 京の水をみらいへつなぐ 13

視点② 京の水でころろをはぐくむ 19

視点③ 京の水をささえつづける 21

プランの目標に対する評価 23

2 財務指標等に基づく中長期の分析
(経営指標評価) 25

今後の方向性

第3章 今後の事業運営について 35

京都市上下水道局ホームページ (<https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/>) ではさらに詳しい情報をご覧ください。

- ・ 経営指標評価における評価区分ごとの分析
- ・ 「水に関する意識調査」結果
- ・ 水道事業ガイドライン
- ・ 下水道維持管理サービス向上のためのガイドライン



指標はオープンデータとして公開しています！

京都市上下水道局マスコットキャラクター
ホタルのひかりちゃん

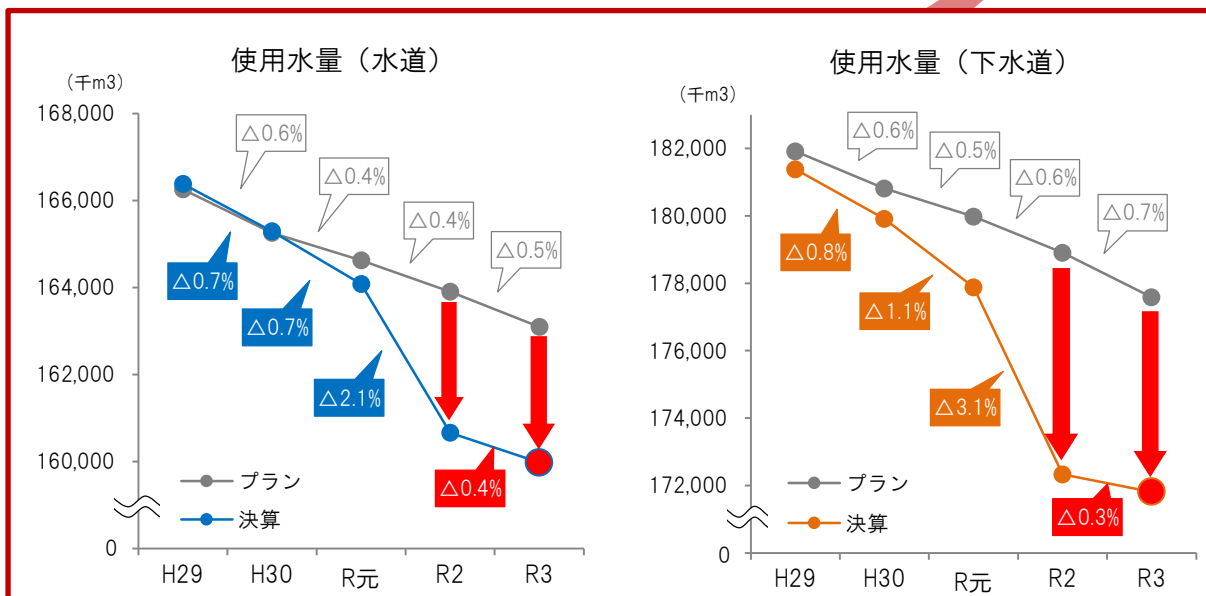
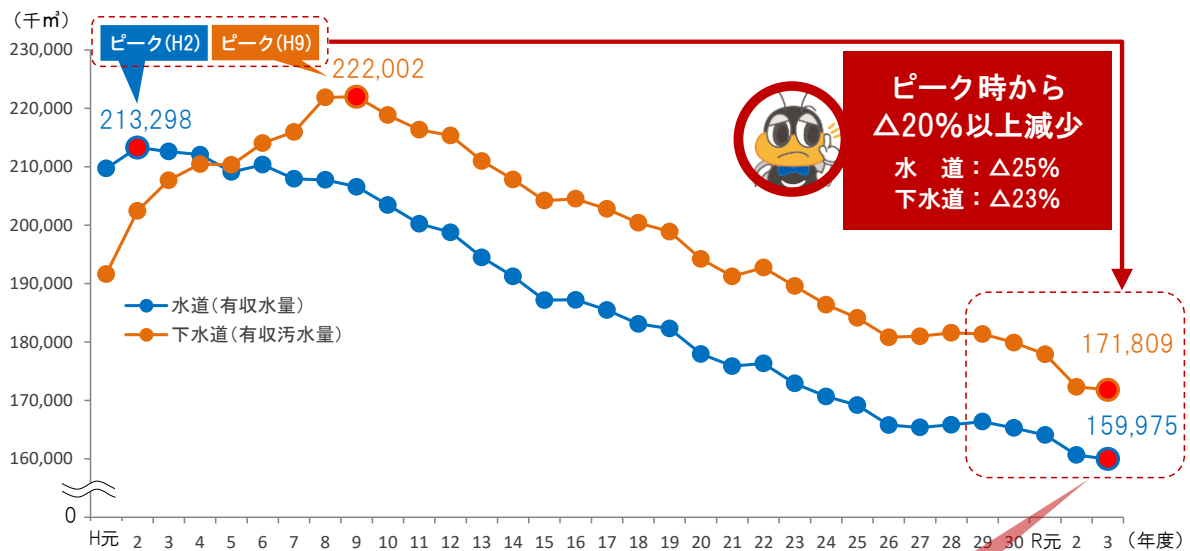
上下水道事業を取り巻く経営環境

水需要（使用水量）の減少

節水型社会の定着等により、本市の水需要（水道：有収水量・下水道：有収汚水量）は、ピーク時（水道：平成2年度、下水道：平成9年度）と比較して△20%以上と大きく減少しています。

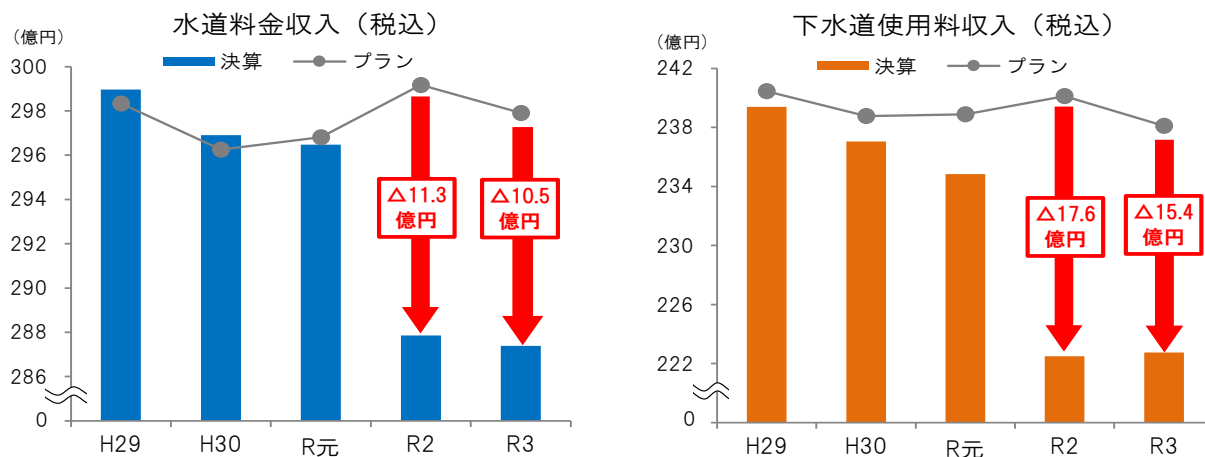
こうした中、令和3年度の使用水量は、**新型コロナの影響により大幅に減少した令和2年度よりも更に減少（前年度比は水道：△0.4%、下水道：△0.3%）し、プランを大幅に下回る（プラン比は水道：△1.9%、下水道△3.3%）大変厳しい結果**となりました。

用途別で見ると、家庭用では前年度比で令和2年度は増加したものの、令和3年度は減少に転じました。また、事業用では、令和2年度に著しく減少し、令和3年度は小幅な増加にとどまり、依然として厳しい状況が続いています。



水道料金・下水道使用料収入の状況

令和3年度は、前年度に引き続き、新型コロナの影響による使用水量の大幅な減少（料金単価の高い事業用で著しく減少）に伴い、**令和2年度との比較でも、ほぼ同程度（水道は△0.4億円、下水道は+0.2億円）の収入に留まり、プランとの比較では、水道は△10.5億円、下水道は△15.4億円下回る大変厳しい結果**となりました。

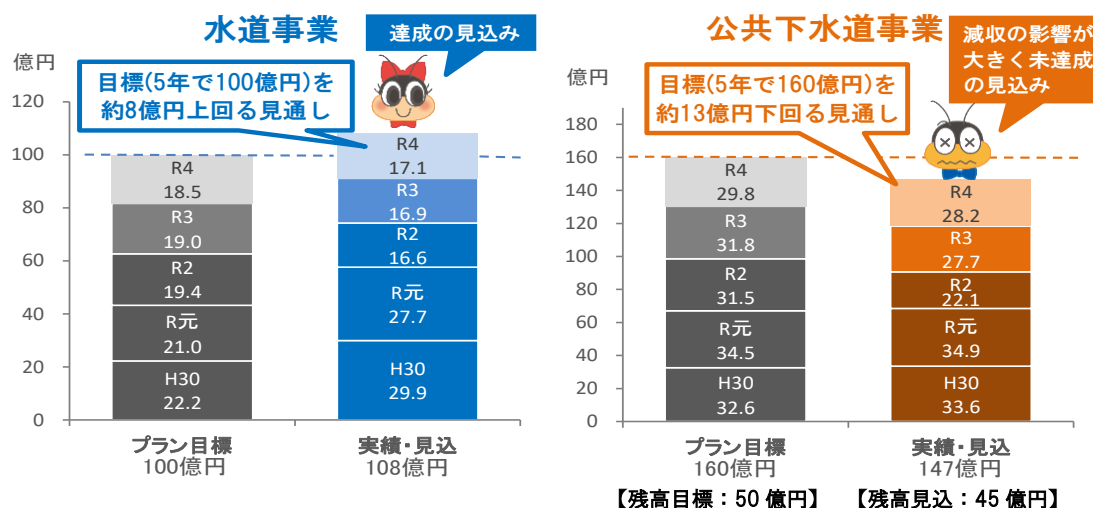


注 プランは税込値のため、税込額で比較。

積立金（利益）目標の達成状況

プランでは、老朽管等の更新や企業債の償還（借金の返済）の財源となる積立金（利益）について、計画期間の5か年で、水道は100億円、下水道は160億円確保することとしています。

平成30年度及び令和元年度は、経費削減に努めることで目標を上回る積立金を確保できた一方、**令和2年度に引き続き令和3年度も、新型コロナの影響による大幅な減収を受けて、これまで以上に経費削減の取組を進めましたが、減収の影響が大きく、水道・下水道ともにプランに掲げた目標を下回る厳しい結果**となりました。



令和3（2021）年度の事業推進の状況

令和3年度の上水道事業を取り巻く経営環境は、新型コロナウイルス感染症の影響の継続などによる水道料金・下水道使用料の大幅な減収により、大変厳しい状況となりました。そうした中でも、市民の皆さまの生活を支える重要なライフラインである水道・下水道をいつまでも安心して御利用いただけるよう、業務執行体制の見直しや効率的な事業運営に加え、あらゆる業務の再点検と見直しを行い、各事業を着実に推進しました。

方針② はこぶ

水道配水管の更新・耐震化の年間実施延長

57 km（詳細は14ページ）

下水道管路の調査及び改築・地震対策の年間実施延長

33 km（詳細は15ページ）

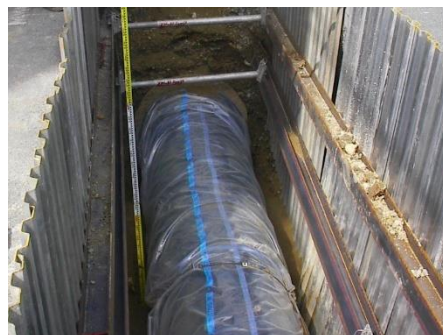
老朽化した水道配水管の更新・耐震化を実施し、年間の更新率は1.5%となりました。
また、下水道の管路内調査を行い、計画的に老朽化した下水道管路や重要な管路の改築更新・耐震化を進めました。

数値目標：老朽配水管の解消率

令和3年度実績/目標	令和4年度目標
42.1% / 42.1%	47%

数値目標：下水道管路改築・地震対策率

令和3年度実績/目標	令和4年度目標
24.8% / 24.8%	28%



水道配水管の布設替工事



下水道管路の更生工事



管路・施設の老朽化対策・地震対策を推進しています

水道・下水道ともに管路・施設の老朽化が進んでいく中、皆さまに安心して御利用いただけるよう、計画的に老朽化対策を進めています。



鳥丸丸太町幹線公共下水道工事シールドマシン
(下水道管を布設するために、地中を掘削していく機械)

方針④ まもる

10年確率降雨に対応した雨水整備率

33.0%（詳細は17ページ）

大雨の時に雨水を取り込む雨水幹線等の整備を進め、「10年確率降雨に対応した雨水整備率」は、目標を上回る33.0%に向上しました。

数値目標：雨水整備率（10年確率降雨（62mm/h）対応）

令和3年度実績/目標	令和4年度目標
33.0% / 29.6%	33%



市民・事業者の皆さまとともに「雨に強いまちづくり」を進めます

5年確率降雨（52mm/h）対応では全国トップクラスとなる91%!

これまでに総貯留量50万9千トン（学校プール1,200個以上）の雨水幹線等を整備しており、今後も雨水貯留施設・雨水浸透ますの普及促進等を図りながら、市内の浸水に対する安全度を更に向上させていきます。

	数値目標の達成状況		取組項目の達成状況				
	達成	未達成	A (100%以上)	B (99~80%)	C (79~50%)	D (49~30%)	E (29%以下)
プラン全体	-	1					
🌊 視点①	10	2	15	3	-	-	-
🌱 視点②	4	2	4	2	-	-	-
👤 視点③	4	-	6	-	-	-	-

プランに記載の数値目標のうち当年度における目標数値が設定されていない項目を除く。



事業活動に伴う温室効果ガスの排出量削減率

37.3%

 (詳細は 20 ページ)

太陽光発電や省エネ・高効率機器の採用に加え、下水汚泥固形燃料化事業を開始したことで、温室効果ガスの排出を抑制できたため、「事業活動に伴う温室効果ガスの排出削減率」は目標を上回る 37.3%に向上しました。

数値目標：事業活動に伴う温室効果ガスの排出削減率



石田水環境保全センターの太陽光発電設備



令和3年度実績/目標
37.3% / 25.0%

令和4年度目標
25%



1年間に有効利用した下水汚泥の総量

20,699トン

 (詳細は 20 ページ)

令和3年度から稼働を開始した下水汚泥固形燃料化事業等により、多くの汚泥を有効利用できたことから、「下水汚泥有効利用率」は目標を上回る 71.8%に向上しました。

数値目標：下水汚泥有効利用率



鳥羽水環境保全センター固形燃料化施設



令和3年度実績/目標
71.8% / 50.0%

令和4年度目標
50%

企業債残高削減額 (R2-R3)

区分	R2	R3	削減額
水道	1,582 億円	1,574 億円	△8 億円
下水道	2,687 億円	2,593 億円	△94 億円
計	4,269 億円	4,167 億円	△102 億円



企業債残高の削減

102億円

 (詳細は 22 ページ)

組織・業務の見直しや民間活力の導入をはじめ、効率的な事業運営に努めるとともに、国からの補助金等を確保できたことで企業債残高の目標を達成しました。

数値目標：企業債残高

令和3年度実績/目標
4,167 億円 / 4,167 億円

令和4年度目標
4,057 億円



※令和4年度予算における目標値

令和3（2021）年度の数値目標達成状況

区分	通番	指標名	R2 実績	R3 実績 (目標)	達成状況	R4 目標 (プラン目標)	
プラン全体	1	事業に対する総合満足度※1	77.9%	76.9% (79.7%以上)	×	70%以上	
視点① 京の水をみらいへつなぐ	①つくる	2	異臭（かび臭）のない水達成率	98.3%	100.0% (100%)	○	100%
		3	浄水施設の耐震化率※2、※3	51.0%	— (—)	—	76%
		4	配水池の耐震化率※3	35.9%	43.2% (43.2%)	○	54%
	②はこぶ	5	有収率	91.1%	91.8% (90.9%)	○	91.0%
		6	老朽配水管の解消率	37.1%	42.1% (42.1%)	○	47%
		7	主要管路の耐震適合性管の割合	56.1%	57.4% (57.0%)	○	58%
		8	下水道管路改築・地震対策率	21.4%	24.8% (24.8%)	○	28%
	③きれいにする	9	高度処理管理目標水質達成率	100%	100% (100%)	○	100%
		10	処理施設の改築更新数	累計 24 施設	累計 33 施設 (累計 31 施設)	○	累計 37 施設 (2018-2022 年度)
		11	合流式下水道改善率※3	70.0%	70.0% (75.9%)	×	96%
	④まもる	12	飲料水の備蓄率※1	61.9%	56.3% (62.4%)	×	55%
		13	雨水整備率(10年確率降雨対応)※3	29.3%	33.0% (29.6%)	○	33%
	⑤いどむ	14	新技術等の調査研究件数	年間 22 件	年間 28 件 (年間 24 件)	○	累計 90 件 (2018-2022 年度)
	視点② 京の水でこころをはぐくむ	①こたえる	15	窓口、電話対応のお客さま満足度	64.4%	72.7% (64.4%)	○
16			インターネットを活用したサービスの利用件数	年間 25,613 件	年間 35,221 件 (年間 22,000 件)	○	累計 45,000 件 (2018-2022 年度)
17			広報活動の認知度	32.6%	27.0% (34.5%)	×	35%
②ゆたかにする		18	琵琶湖疏水記念館来館者数	累計 280.7 万人	累計 284.5 万人 (累計 297.5 万人)	×	累計 310 万人 (2018-2022 年度)
		19	事業活動に伴う温室効果ガスの排出量削減率(H16比)	31.0%	37.3% (25.0%)	○	25%
		20	汚泥有効利用率※3	36.5%	71.8% (50.0%)	○	50%
視点③ 京の水をささえつづける	①になう	21	技術系資格保持者の割合	36.2%	38.2% (38.0%)	○	40%
	②ささえる	22	職員定数	1,186 人	1,172 人 (1,172 人)	○	1,149 人
		23	下水道の大規模更新に備えた積立金	8.7 億円	36.4 億円 (31.8 億円)	○	50 億円
		24	企業債残高	4,269 億円	4,167 億円 (4,167 億円)	○	4,149 億円

※1 プランで掲げている当初目標を既に達成しているため、令和3年度は当該実績以上となるよう目標設定をしました。

※2 「浄水施設の耐震化率」は令和3年度の目標設定がないため評価していません。

※3 施設整備に関する指標の数値は整備完了に伴い反映させるため、必ずしも毎年度均等に上昇するものではありません。

- 令和3年度は、**数値目標（令和3年度の目標設定がない「浄水施設の耐震化率」を除く）23指標のうち18指標で目標を達成し、プラン全体の目標である「事業に対する総合満足度」（目標79.7%以上）については、76.9%と目標を下回ったものの、70%を超える高い水準を維持しました。**
- 水道事業では、老朽化した水道管路の改築更新・地震対策を進めたことにより**「老朽配水管の解消率」（目標42.1%）、「主要管路の耐震適合性管の割合」（目標57.0%）について目標を達成**しました。また、「配水池の耐震化率」（目標43.2%）についても目標を達成しました。
- 公共下水道事業では、老朽化した下水道管路の改築更新・地震対策や、雨に強いまちづくりに向けた雨水幹線等の整備を着実に進め、**「下水道管路改築・地震対策率」（目標24.8%）、「雨水整備率（10年確率降雨対応）」（目標29.6%）について目標を達成**しました。一方で「合流式下水道改善率」（目標75.9%）については、津知橋幹線工事の完成が延期となったため目標未達成となりました。
- お客さまサービス・広報活動では、「広報活動の認知度」（目標34.5%）について目標に届きませんでした。が、**「窓口、電話対応のお客さま満足度」（目標64.4%）及び「インターネットを活用したサービスの利用件数」（目標年間22,000件）について目標を大きく上回り達成**しました。
- 経営基盤強化の取組については、業務の執行体制の見直しや積立金の確保による企業債の発行抑制により、**「職員定数」（目標1,172人）と「企業債残高」（目標4,167億円）等の目標を達成**しました。
- この他に、「飲料水の備蓄率」（目標62.4%）について、56.3%と目標を下回りました。また、「琵琶湖疏水記念館来館者数」（目標累計297.5万人）については、新型コロナウイルス感染症の影響により目標未達成となりました。

《各指標の定義》

- 1 「水に関する意識調査」において、「満足」、「やや満足」と回答いただいた方の割合
- 2 かび臭物質の濃度が管理目標値（水質基準値の50%の値）以下となる回数÷浄水場における全検査回数
- 3 耐震対策の施された浄水場の施設能力÷全浄水場の施設能力
- 4 耐震対策の施された配水池等有効容量÷配水池等有効容量
- 5 年間有収水量÷年間給水量
- 6 老朽配水管（昭和34～52年に布設した耐震性に劣る初期ダクタイル鋳鉄管）の平成21年度（更新事業開始年度）当初延長に対する更新済の延長の割合
- 7 主要管路のうち耐震適合性のある管路延長÷主要管路延長
- 8 対策済管路延長÷破損等のリスクが高い旧規格の管路延長
- 9 高度処理を導入している12系列において、窒素・リンの濃度が管理目標値以下となった系列の割合
- 10 水環境保全センター及び浄化センターにおける約600施設のうち、プランの5年間で改築更新を行う必要がある（機能低下が見込まれる）施設数
- 11 合流式下水道改善済面積÷合流式区域面積
- 12 「水に関する意識調査」において、「飲料水を備蓄している」と回答いただいた方の割合
- 13 10年確率降雨（1時間あたり62ミリ）に対応した浸水対策実施済面積÷公共下水道事業計画区域面積
- 14 共同研究、自主調査、研究発表等の実施件数の合計（5年間）
- 15 「水に関する意識調査」において「満足」、「やや満足」と回答いただいた方の割合（利用経験がない等を除く）
- 16 インターネットを通じた開閉栓等の受付件数、使用水量閲覧サービスの申込件数等の平成30年度以降の累計件数
- 17 「水に関する意識調査」において、イベント・ポスター等を「よく見かける」、「時々見かける」と回答いただいた方の割合
- 18 琵琶湖疏水記念館の累計来館者数
- 19 「京都市役所CO2削減率先実行計画」に基づいて算定した2004（平成16）年度比の削減率
- 20 有効利用した汚泥量÷総発生活泥量
- 21 全技術系職員のうち、業務に関係し、難易度が高い技術系資格（1級施工管理技士や技術士等）を保持している職員の割合
- 22 水道事業・公共下水道事業を合わせた職員定数
- 23 公共下水道事業における将来の大規模更新に備えた積立金
- 24 水道事業・公共下水道事業を合わせた企業債残高（翌年度への延伸分（繰越事業に係る分）を含む数値）

令和3（2021）年度の事業評価一覧及び総括

視点	方針	取組	評価
①京の水をみらいへつなぐ	①つくる	① 水源から蛇口までの水質管理の徹底	A
		② 原水水質の変化に対応した最適な浄水処理の推進	A
		③ 安定的に水道水をつくるための基幹施設の改築更新・耐震化	A
	②はこぶ	① 配水管等の適切な維持管理の推進	A
		② 安定的に水道水を供給するための配水管の更新・耐震化	A
		③ 安全・安心な水道水をお届けするための給水サービスの向上	A
		④ 下水道管路の適切な維持管理の推進	A
		⑤ 優先度を踏まえた下水道管路の改築更新・耐震化	A
		⑥ 適切に下水道をお使いいただくための啓発や勧奨	B
	③きれいに する	① 下水の高度処理や適切な水質管理による処理水質の維持・向上	A
		② 水環境保全センター施設の再構築	A
		③ 健全な水環境を保全するための合流式下水道の改善	B
	④まもる	① 「公助」としての災害に強い施設整備や危機管理体制の強化	A
		② 「自助」の意識啓発や「共助」の推進による災害対応力の強化	B
		③ 「雨に強いまちづくり」を実現するための浸水対策の推進	A
	⑤いどむ	① 常に発展し続けるための新技術の調査・研究	A
		② 広域化・広域連携におけるリーダーシップの発揮	A
		③ 国際協力事業の推進と国際貢献を通じた職員の育成	A
②京の水でこころをはぐくむ	①こたえる	① お客さま窓口機能の充実とマーケティング機能の強化	A
		② お客さまの声を反映した新たなサービスの展開	A
		③ 京の上下水道を未来へ継承する広報・広聴活動の推進	B
	②ゆたかに する	① 琵琶湖疏水の魅力発信等による文化・景観や観光振興への貢献	B
		② 創エネルギー・省エネルギーによる低炭素社会の実現への貢献	A
		③ 地球環境にやさしい循環型まちづくりへの貢献	A
③京の水をささえつづける	①になう	① 将来にわたり水道・下水道を支え続ける企業力の向上	A
		② 京の水をともに支える市民・事業者の皆さまとの更なる連携	A
	②ささえる	① 施設マネジメントの実践等によるライフサイクルコストの縮減	A
		② 業務執行体制の見直しや民間活力の導入等による経営の効率化	A
		③ 将来にわたって事業を持続していくための財務体質の更なる強化	A
		④ 継続的な経営改善の推進と適正な料金施策の検討	A

1年間の進捗に対する取組項目評価については、全体としては概ね順調に進捗したものの、一部工事の遅れ等により、**30の取組項目のうちA評価（十分に達成されている）が25項目、B評価（かなり達成されている）が5項目、C評価（おおよそ達成されている）以下がゼロとなりました。**

なお、**令和4年度についても新型コロナウイルス感染症の影響により事業用の使用水量が引き続き減少**していることから、上下水道事業を取り巻く経営環境は厳しい状況が続いております。

今後、**プランに掲げる積立金（利益）の確保が困難となる大変厳しい見通しの中**、予算の執行に当たってはより一層の精査を行いながら**これまで以上に経費削減に努め、効率的な事業運営を図るとともに**、持続可能な「レジリエント・シティ京都」の実現に向け、**長期的な視点での取組について引き続き着実に推進**してまいります。

視点① 京の水をみらいへつなぐ

- 水安全計画の適正な運用、老朽化した水道管路や浄水場の基幹施設（配水池等）の改築更新・地震対策等
- 老朽化した下水道管路や重要な管路（緊急輸送路下の管路、避難所からの排水を受ける管路）及び水環境保全センター主要施設の改築更新・地震対策等
- 「南北2か所の事業・防災拠点」の実現に向けた南部拠点整備事業、防災・減災のための装備の拡充や他事業体等との合同防災訓練、「雨に強いまちづくり」に向けた雨水幹線の整備等



18の取組項目に対する評価は、A評価が15、B評価が3、C評価以下がゼロとなりました。また、数値目標は、「合流式下水道改善率」及び「飲料水の備蓄率」の2項目が目標に届きませんでしたが、**その他の11項目は目標達成**となりました。

視点② 京の水でころろをはぐくむ

- インターネットを活用したお客さまサービスの利用促進、動画を活用した広報の充実や疏水通船事業の運営支援等
- 大規模太陽光発電設備による再生可能エネルギーの継続的な利用、省エネ・高効率機器の導入、固形燃料化施設等による下水汚泥の有効活用等



6つの取組項目に対する評価は、A評価が4、B評価が2、C評価以下がゼロとなりました。また、数値目標は、「広報活動の認知度」及び「琵琶湖疏水記念館来館者数」は目標に届きませんでしたが、**その他の4項目は目標達成**となりました。

視点③ 京の水をささえつづける

- 若手職員の技術力向上を目的とした「専門技術研修」、水道及び下水道技術研修施設の運用等
- 組織・業務の見直しや民間活力の導入等の効率的な事業運営、企業債残高の削減、保有資産の有効活用等



6つの取組項目に対する評価は、6項目全てA評価となりました。また、**4つの数値目標はいずれも目標達成**となりました。

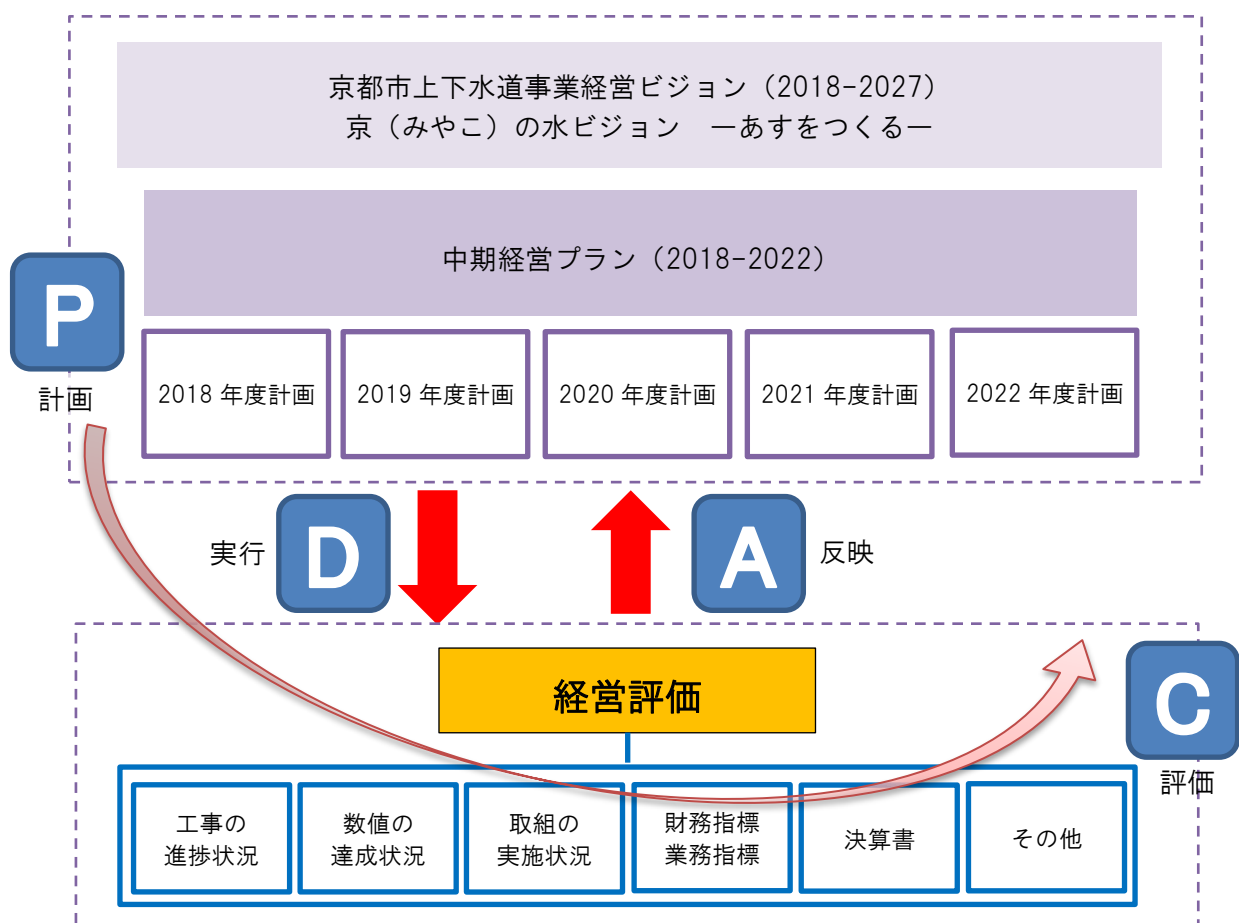
第1章 上下水道事業の経営管理

1 経営評価の目的と位置付け

平成30年3月に策定した「京都市上下水道事業経営ビジョン（2018-2027） 京（みやこ）の水ビジョン ―あすをつくる―」（以下「ビジョン」）及びその前期5か年の実施計画「中期経営プラン（2018-2022）」（以下「プラン」）に基づき事業を推進するに当たり、適切な執行管理・継続的な改善と市民サービスの向上を図るとともに、その結果を公表することにより市民の皆さまに対する説明責任を果たし、市民の視点に立った市政の実現を図ることを目的として、毎年「経営評価」を実施しています。

「経営評価」は、京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例で義務付けられた特定分野に関する行政評価であり、この行政評価制度の趣旨を踏まえ、経営戦略のPDCAサイクルのC（チェック）に位置付けています。

「経営評価」では単年度計画の1年間の成果について5段階の評価を実施しています。また、水道事業、公共下水道事業それぞれのガイドラインに基づく財務指標や業務指標を用いた評価を実施し、中長期的な経営分析を行っています。



「京（みやこ）の水ビジョン」及び「中期経営プラン（2018-2022）」は上下水道局ホームページ（<https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000233138.html>）を御覧ください。事業の概要や背景・課題などについても詳しく記載しています。



2 第三者の視点による点検

事業の適切な執行管理を行うことに加えて、水道事業、公共下水道事業の経営・事業運営に市民や有識者等の意見を取り入れることにより、事業の客観性・透明性を高めるとともに、市民の視点に立った経営・事業運営を行うことを目的として、平成25年9月から「京都市上下水道事業経営審議委員会」を設置しています。

経営審議委員会は、市民公募委員、学識経験者及び民間有識者で構成されており、経営評価の点検・評価をいただくとともに、水道事業、公共下水道事業の進捗状況の点検や直面する課題、広報・広聴の充実など、経営全般に対する提案・助言をいただいています。

また、経営審議委員会は公開の場で開催しており、配布資料や議事録についても京都市上下水道局ホームページにおいて公開しています。

<審議委員会の開催状況等>

○令和3年度

第1回 7月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度京都市上下水道事業経営評価（令和2年度事業）について ・「令和3年度 水に関する意識調査」について <p style="text-align: right;">ほか</p>
第2回 12月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度決算について ・中期経営プランに基づく令和3年度計画上半期進捗状況について <p style="text-align: right;">ほか</p>
第3回 3月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・中期経営プランに基づく令和4年度計画について ・「令和3年度 水に関する意識調査」の実施結果を踏まえた対応について <p style="text-align: right;">ほか</p>

過去の委員会での経営評価に対する主なご意見等

- ・数値目標に関して、単年度目標は未達成となっているが、中期経営プランの目標は達成しているものがある。目標を都度変えるのは良い方法とは言えず、少なくとも中期経営プランの目標は達成していることが分かるようにすべきである。
- ・ハイライトのページについて、単位の表示が非常に目立ってしまっているが、数値や取組自体を目立たせる方が良いと思う。
- ・5か年全体の進捗状況を澄都くんのイラストで表記しているのは分かりやすく面白い。
- ・上下水道局は京都市の中でも先駆けてSDGs(持続可能な開発目標)に取り組んでいると感じている。
- ・水道料金を安くした結果、質が低下しては意味がない。
このような観点で見る必要がある。
- ・今後も配水管の耐震化等を推進し、災害時でもしっかりと水道を供給してもらえるようお願いする。

ご意見を踏まえた改善点等

- ・数値目標について、ご指摘を踏まえ、すでにプラン目標を達成している旨の説明を補足しました。
- ・ハイライトのページについて、数値や取組が目立つよう記載内容を見直しました。



審議委員会の様子

第2章 経営評価

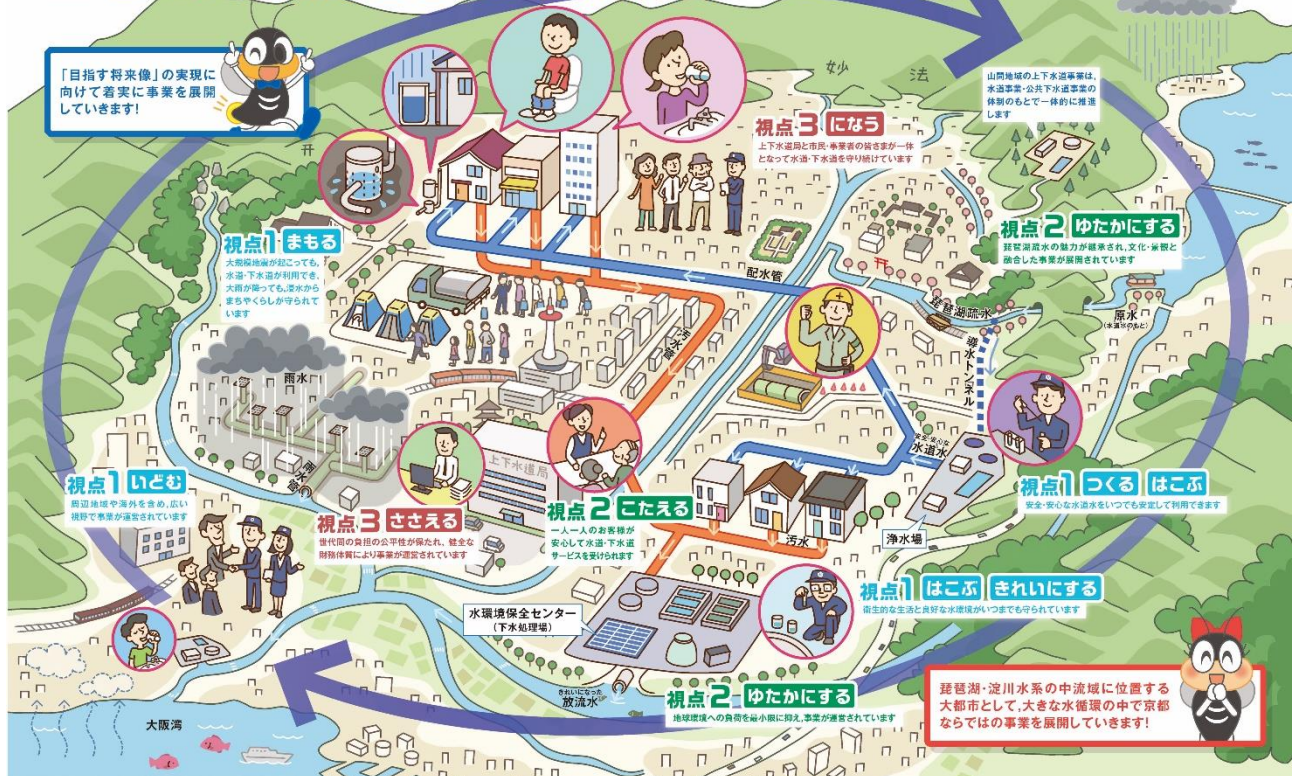
ここでは、「京（みやこ）の水ビジョン」（以下「ビジョン」）・「中期経営プラン（2018-2022）」（以下「プラン」）に掲げる3つの視点と9つの方針に連なる30の取組項目に対する評価（取組項目評価）及び業務指標を活用した経営指標の評価（経営指標評価）の結果をまとめています。

＜「京（みやこ）の水ビジョン -あすをつくる-」の取組の構成＞

京の水からあすをつくる

視点① 京の水をみらいへつなぐ 私たち上下水道局は、安全・安心な水道水をつくる、下水をきれいにして川へ返す、災害からまちとくらしを守るなど、水道・下水道の基本的な役割の責任をしっかりと果たしつつ、新しい技術の導入など、京の水を“みらいへつなぐ”ために、挑戦し続けます。	方針① つくる 水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります 方針② はこぶ 老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます 方針③ きれいにする 下水をきれいにして川へ返し、市内河川や下流域の水環境を保全します 方針④ まもる 市民の皆さまとともに、地震や大雨などの災害から、まちとくらしを守ります
視点② 京の水でこころをはぐくむ 私たち上下水道局は、市民の皆さまのニーズに対応したサービスを提供し、期待に応え続けることはもとより、京都ならではの「こころの創生」を重視し、文化や景観、そして地球環境に配慮した“こころをはぐくむ”事業運営に努めます。	方針⑤ いどむ 新しい技術を取り入れながら、周辺地域や海外を含めた広い視野で、未来に向けた挑戦を続けます 方針① こたえる 分かりやすく伝え、しっかりと声を受け止め、市民の皆さまの期待に応え続けます 方針② ゆたかにする 琵琶湖疏水の魅力を高め、地球環境にやさしい事業運営により、まちやこころをゆたかにします
視点③ 京の水をささえつづける 私たち上下水道局は、市民の皆さま、そして水道・下水道に携わる事業者の皆さまとともに、“京の水をささえつづける”ため、これまで培ってきた技術を確実に次世代へと継承しつつ、長期的な視点に立ち、安定した経営を行います。	方針① になう これまで培ってきた技術をしっかりと継承し、京の水の担い手を育て、きずなを強めます 方針② ささえる 50年後、100年後を見据えた経営を行い、将来にわたって京の水を支え続けます

3つの視点から目指す将来像



1 各取組の評価（取組項目評価）

取組項目評価とは、上下水道事業を進めるための個々の取組状況の達成度を評価するもので、ビジョン及びプランに掲げる 30 の取組項目の目標水準に対する達成度について5段階評価を実施するとともに、上位の9つの方針の達成状況を分析し、体系的な評価を行います。

また、評価結果を踏まえて課題及び今後の取組について明確にすることにより、PDCAサイクルを確かなものとし、上下水道事業の更なる推進を図ることとしています。

<ページの見方について>

関連するSDGsのゴール（目標）のロゴを示しています。

9つの方針に連なる30の各取組項目について、評価と具体的な実施状況、今後の取組等を記載しています。

視点① 京の水をみらいへつなぐ

活動① つくる 水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります

3 保健 6 水・衛生

取組① 水源から蛇口までの水質管理の徹底

- 水質監視の強化のため、**原水及び配水水質監視装置により24時間連続監視を実施**しました。
- 水源から蛇口までの間に発生する可能性のある危害の未然防止を目的とした「**水安全計画**」に基づき適正に水質管理を実施するなど適正な運用に努めました。

評価	水質監視装置による24時間連続監視や水安全計画の運用を計画どおり進めたためA評価としました。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 水道GLPに基づく精度の高い水質検査及び水道GLPの認証に係る更新審査を実施します。 水質監視装置の計画的な更新・増設など、水質監視の強化を図ります。

異臭(かび臭)のない水道水率(%)

数値目標の100%を達成!



評価方法は **A B C D E** の5段階評価

十分に達成されている かなり達成されている おおよそ達成されている あまり達成されていない 達成されていない

30の取組項目を構成する個々の取組の実施内容・目標についての評価結果を点数化(5~1)し、取組項目ごとに集約した平均値が、
 4.6以上→A評価 3.6~4.5→B評価 2.6~3.5→C評価
 1.6~2.5→D評価 1.5以下→E評価

数値目標があるものや工事に係るものは進捗率に応じて、数値目標のないものはその達成度合いに応じて5段階の評価を行い、30の取組項目ごとに集約・平均化します。

<実施内容・目標ごとの評価基準>

- 5 目標値の100%以上 または 十分に達成されている
- 4 目標値の80%~99% または かなり達成されている
- 3 目標値の50%~79% または おおよそ達成されている
- 2 目標値の30%~49% または あまり達成されていない
- 1 目標値の29%以下 または 達成されていない

令和3年度の各取組の内容や実施状況については、ホームページに掲載していますので、併せて御覧ください。
<https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000007498.html>





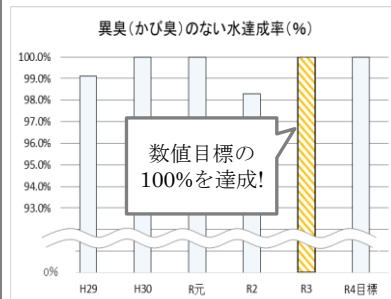
水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります
水質管理（水道）、浄水場の改築更新や維持管理



3 保健 6 水・衛生

取組① 水源から蛇口までの水質管理の徹底

- ・水質監視の強化のため、**原水及び配水水質監視装置により24時間連続監視を実施**しました。
- ・水源から蛇口までの間に発生する可能性のある危害の未然防止を目的とした「水安全計画」に基づき適正に水質管理を実施するなど適正な運用に努めました。



評価	水質監視装置による24時間連続監視や水安全計画の運用を計画どおり進めたためA評価としました。
A	
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・水道 GLP に基づく精度の高い水質検査及び水道 GLP の認証に係る更新審査を実施します。 ・水質監視装置の計画的な更新・増設など、水質監視の強化を図ります。

取組② 原水水質の変化に対応した最適な浄水処理の推進

- ・従来の粉末活性炭よりも臭気を除去する能力に優れる高機能な粉末活性炭を浄水場の既存注入設備を用いて使用するとともに、既存注入設備の更新に併せて、より効果的・効率的な運用ができる**粉末活性炭注入設備設置工事について、蹴上浄水場に係る実施設計を完了し、松ヶ崎浄水場に係る実施設計を引き続き実施**しました。



現在の粉末活性炭注入設備

評価	高機能な粉末活性炭の注入設備設置工事に係る実施設計を計画どおり実施したため、A評価としました。
A	
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・蹴上浄水場において高機能な粉末活性炭注入設備設置工事に着手します。

取組③ 安定的に水道水をつくるための基幹施設の改築更新・耐震化

- ・新山科浄水場導水トンネル築造工事等を継続実施しました。また、新山科浄水場2系ちんでん池改良工事、蹴上浄水場第2高区3号配水池耐震化工事及び松ヶ崎浄水場高区1・2号配水池改良工事を完了し、「**配水池の耐震化率**」**43.2%の目標を達成**しました。
- ・松ヶ崎浄水場中央監視制御設備更新工事を完了しました。
- ・新山科浄水場低区3・4号配水池耐震化工事等に着手しました。



松ヶ崎浄水場
高区1・2号配水池

評価	基幹施設の改築更新・耐震化について、計画どおり実施したため、A評価としました。
A	
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・新山科浄水場導水トンネルの築造工事について、令和9年度末の完成を目指します。 ・令和4年度目標の耐震化率達成に向けて、事業を順次進めます。



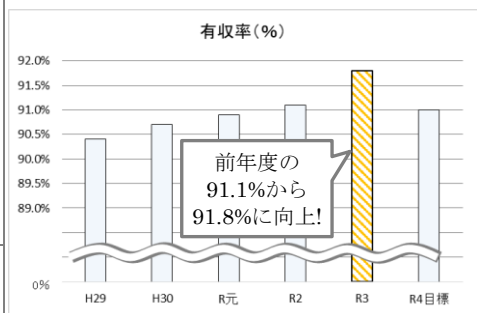
老朽化した管路の更新と耐震化を進め、
水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます

水道・下水道管路の改築更新や維持管理



取組① 配水管等の適切な維持管理の推進

- ・ 水道管路の予防保全の取組として、**約 3,050 kmの漏水調査の実施**により、481 か所の漏水を発見しました。
- ・ にごり水が発生しやすくなっている水道配水管の洗浄作業（「京（みやこ）の水道管おそうじプロジェクト」）を8回にわたり実施しました。
- ・ **有収率は目標（90.9%）を上回る 91.8%になりました。**

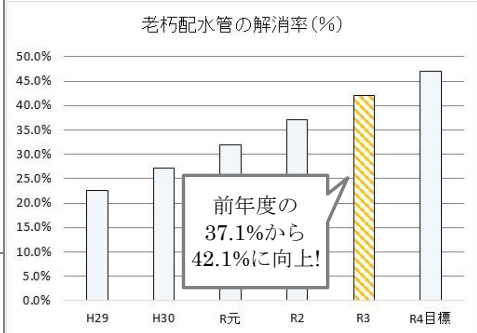


評価	漏水調査や配水管洗浄等の適切な維持管理に向けた取組を計画どおり実施したため、 A評価 としました。
----	--

今後の取組	・ 漏水調査などにより水道管路の予防保全の取組を計画的に実施します。
-------	------------------------------------

取組② 安定的に水道水を供給するための配水管の更新・耐震化

- ・ **老朽化した水道配水管 57kmの更新・耐震化を実施し（更新率は 1.5%）、「老朽配水管の解消率」は目標どおり 42.1%に向上し、「主要管路の耐震適合管の割合」が目標（57.0%）を達成しました。**
- ・ 災害時における給水のバックアップ機能強化のための連絡幹線配水管布設工事について、概ね順調に進捗しました。

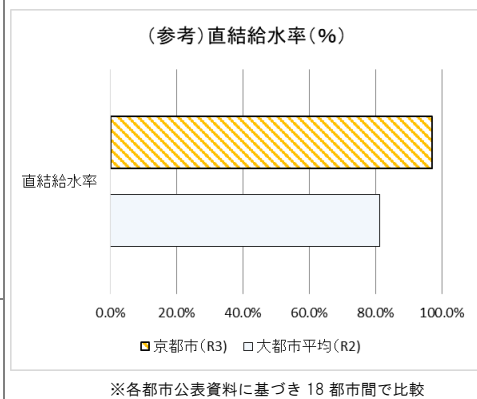


評価	配水管の更新・耐震化等の取組について、 順調に進捗したため、A評価 としました。
----	---

今後の取組	・ 継続して目標を達成できるよう、引き続き老朽配水管の解消や主要管路の耐震化を進めます。
-------	--

取組③ 安全・安心な水道水をお届けするための給水サービスの向上

- ・ 受水槽の適正な維持管理に向けた個別訪問調査や直結式給水のPRを実施しました。
- ・ 指定給水装置工事事業者の資質保持や技術力向上を図るため、研修等による指導を行うとともに、**更新制度を引き続き適切に運用**しました。
- ・ 鉛製給水管取替助成金制度について、継続して利用促進に向けた周知を行いました。



評価	受水槽の適正な維持管理の啓発や指定給水装置工事事業者の資質保持等に係る取組を計画どおり実施したため A評価 としました。
----	---

今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模な貯水槽水道の設置者に対する調査を実施し、受水槽の適切な維持管理を啓発します。 ・ 改正水道法を踏まえ、事業者の資質の保持や技術力の向上を図る取組を実施します。
-------	--

取組④ 下水道管路の適切な維持管理の推進

- ・下水道管路の予防保全の取組として、**市内全域で巡視・点検を行うとともに、腐食の恐れが大きい箇所**の点検調査(3.3km)を実施しました。
- ・修繕履歴等を含めた管路情報のデータベース化のため、管路の維持管理作業の際に収集した修繕情報等について、順次管路のデータベースに反映させました。

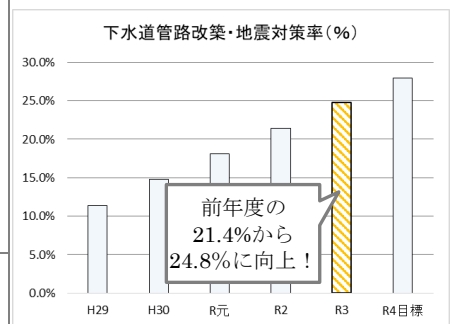


下水道管路の巡視・点検の様子

評価	下水道管路の計画的な巡視や点検調査等を計画どおり実施したため、A評価としました。
今後の取組	・腐食のおそれ大きい箇所について、重点的な点検調査を推進します。

取組⑤ 優先度を踏まえた下水道管路の改築更新・耐震化

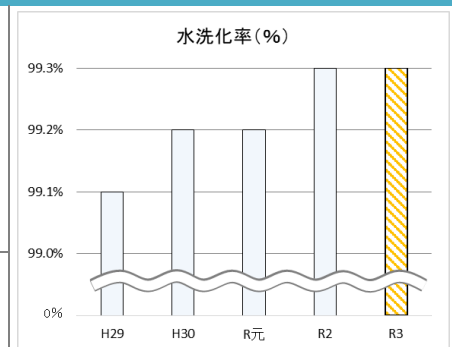
- ・計画的に管路内調査を行うとともに、更生工法(長寿命化)や布設替えにより、**老朽化した管路の計画的な更新と重要な管路(緊急輸送路下の管路、避難所からの排水を受ける管路)の耐震化を進めました**(約33kmの下水道管路の改築更新・地震対策を実施)。
- ・これらの取組により、「**下水道管路改築・地震対策率**」は**目標どおり24.8%に向上**しました。



評価	下水道管路の計画的な更新と重要な管路の耐震化等を計画どおり実施したため、A評価としました。
今後の取組	・老朽化した管路や重要な管路の中でも、特に破損等のリスクの高い旧規格の管路について、布設替えや管更生を実施することにより、優先度を踏まえた改築更新・耐震化を推進します。

取組⑥ 適切に下水道をお使いいただくための啓発や勧奨

- ・未水洗家屋の解消に向けて、**対象となる家屋全戸に対して個別訪問を実施**し、個々の状況に応じたきめ細やかな対策や提案を行うなど粘り強い普及勧奨を行いました。
- ・**工場・事業場へ年間計1,002回の立入検査を行い、監視及び指導を実施**しました。



評価	新型コロナウイルスの影響により事業場への立入検査が年間の目標数に達しなかったためB評価としました。
今後の取組	・未水洗家屋の解消に向けた訪問勧奨や、工場・事業場への立入検査を継続して実施します。



下水をきれいにして川へ返し、市内河川や下流域の水環境を保全します
水質管理（下水）、
水環境保全センターの改築更新や維持管理



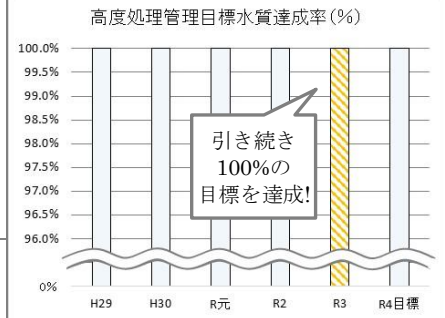
6 水・衛生



14 海洋資源

取組① 下水の高度処理や適切な水質管理による処理水質の維持・向上

- ・水環境保全センターの機械・電気設備の定期整備を行うとともに、修繕履歴の情報整理を引き続き実施するなどデータベース化を進めました。
- ・良好な下水処理を維持するため、適切な水質試験・水質管理を行い、「**高度処理管理目標水質達成率**」100%の目標を**引き続き達成**しました。また、運転管理や水質分析に関する調査・研究を実施しました。



評価	
A	点検整備計画に基づく施設の定期整備等を計画どおり実施したため、A評価としました。

今後の取組	・定期整備を実施して処理機能低下を防ぐとともに、データベース化を推進します。
-------	--

取組② 水環境保全センター施設の再構築

- ・水環境保全センターの主要な施設について引き続き改築更新を進めるとともに、重要な施設については改築更新に合わせて耐震化を図り、**鳥羽水環境保全センターの消毒施設改築更新工事及び伏見水環境保全センターの分流系最初ちんでん池改築更新工事を継続実施**しました。



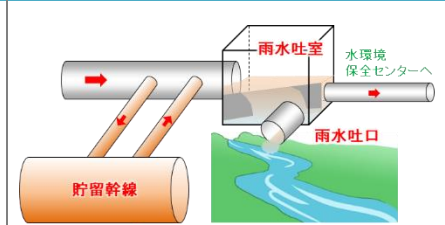
鳥羽水環境保全センター消毒施設（塩素混和池）

評価	
A	水環境保全センターの施設について、改築更新・耐震化を計画どおり実施したため、A評価としました。

今後の取組	・引き続き処理施設の日常の点検整備に基づき、健全度に応じた改築更新を実施し、重要な施設については、改築更新に合わせて耐震化を図っていきます。
-------	--

取組③ 健全な水環境を保全するための合流式下水道の改善

- ・汚水と雨水を一本の管きよで合わせて流す合流式下水道は、雨が強く降ると、汚水の混じった雨水が河川に流出することがあるため、その流出量を減らし河川の水環境を守る対策として、**津知橋幹線、鳥羽水環境保全センター雨水滞水池工事等を継続実施**しました。
- ・「合流式下水道改善率」は70.0%と目標（75.9%）を下回りました。



貯留管による合流式下水道の改善イメージ

評価	
B	合流式下水道の改善について、概ね計画どおり実施したものの、一部工事に遅れが生じ、数値目標が未達成となったためB評価としました。

今後の取組	・引き続き合流式下水道改善に向けて幹線施設及び雨水滞水池等の整備を進めます。
-------	--



市民の皆さまとともに、地震や大雨などの災害から、まちとくらしを守ります

防災・減災対策（公助、共助・自助）や浸水対策



11 都市

13 気候変動

取組① 「公助」としての災害に強い施設整備や危機管理体制の強化

- ・「南北2か所の事業・防災拠点」の実現に向けて、**南部拠点（総合庁舎）の整備**を進めました。
- ・**仮設給水槽の拡充**を行うとともに、**災害用マンホールトイレの整備**を引き続き実施しました。
- ・大規模災害時における応急給水や燃料供給について、**民間事業者と協定を締結**し、円滑な支援を受けられるような体制を構築しました。



南部拠点（総合庁舎）

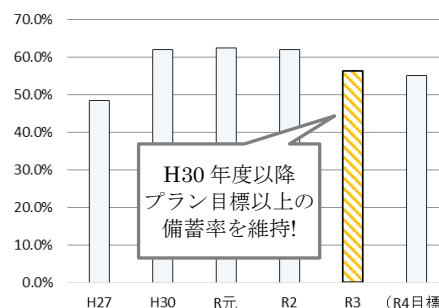
評価	南部拠点の整備や危機管理体制の強化について、計画どおり実施したためA評価としました。
A	

今後の取組	・「南北2か所の事業・防災拠点」を運用するとともに、仮設給水槽の拡充や協定に基づく実践的な訓練の実施など、危機管理体制の強化を図ります。
-------	--

取組② 「自助」の意識啓発や「共助」の推進による災害対応力の強化

- ・**災害用備蓄飲料水「京のががやき 疏水物語」**について、**区役所・支所等での販売受付を行う**とともに、あらゆる広報媒体（ホームページ、事業リーフレット、市民しんぶん、SNS等）を活用したPRを行うことで、飲料水の備蓄意識の向上を図りました。
- ・「飲料水の備蓄率」は56.3%と単年度目標（62.4%）を下回ったものの、プラン目標の55%以上を維持しています。

飲料水の備蓄率（意識調査結果）（%）



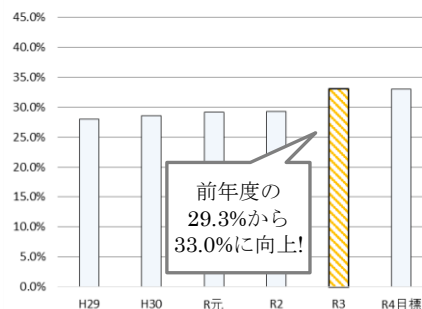
評価	飲料水の備蓄率向上に向けた取組は目標どおり実施しましたが、備蓄率の目標が未達成であったことを踏まえ、B評価としました。
B	

今後の取組	・広報媒体（ホームページ、事業リーフレット、市民しんぶん、SNS等）を活用したPRをするとともに、地域と連携した研修等を通して、飲料水備蓄や共助の必要性について情報発信を行い、災害対応力の強化に取り組めます。
-------	--

取組③ 「雨に強いまちづくり」を実現するための浸水対策の推進

- ・大雨の時に雨水を取り込む雨水幹線等の整備を引き続き進め、**鳥羽第3導水きょ及び鳥丸丸太町幹線等の整備を継続実施**しました。
- ・「**雨水整備率（10年確率降雨（62mm/h）対応）**」は目標（29.6%）を上回る**33.0%に向上**しました。

雨水整備率（10年確率）（%）



評価	「雨に強いまちづくり」に向けた雨水幹線等の整備を計画どおり実施したため、A評価としました。
A	

今後の取組	・過去に浸水した地域や浸水のおそれがある地域において、鳥羽第3導水きょや鳥丸丸太町幹線等の雨水幹線を整備することで、市内中心部の浸水に対する安全度を向上させます。
-------	---



新しい技術を取り入れながら、周辺地域や海外を含めた広い視野で、
未来に向けた挑戦を続けます
新技術の調査・研究、広域化・広域連携等



6 水・衛生

9 イノベーション

取組① 常に発展し続けるための新技術の調査・研究

- ・未来の上下水道事業につながる調査・研究として、**下水道管の改築更新の効率化を図るため、高画質カメラを用いた簡易な調査手法や調査困難箇所を対象とした管内調査手法についての調査研究等を実施**しました。
- ・調査研究に当たっては、**民間企業等と連携した共同研究にも積極的に取り組み**ました。



高画質カメラによる調査試行

評価	
A	新技術の調査・研究について、計画どおり実施したため A 評価としました。

今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な事業運営のため、IoT や AI を含む ICT 等の様々な新技術について調査研究を進めます。 ・外部機関とも共同研究を実施し、研究成果を外部に発信します。
-------	--

取組② 広域化・広域連携におけるリーダーシップの発揮

- ・京都府主催の府内を3つに分けて開催する会議（圏域会議等）への参加を通じて、**京都府及び府内自治体との協議や情報交換等**を行いました。
- ・本市が支部長都市を務める**日本水道協会京都府支部において合同防災訓練を実施**しました。
- ・水質検査等の受託に向けた京都府との協議や府内自治体への情報収集を行いました。



日本水道協会京都府支部の合同防災訓練

評価	
A	広域化・広域連携に係る協議や検討等を計画どおり実施したため、A 評価としました。

今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、京都府や周辺自治体との協議や連携を進めるとともに、広域連携に係る取組等を検討します。
-------	--

取組③ 国際協力事業の推進と国際貢献を通じた職員の育成

- ・JICA（国際協力機構）による海外技術者への研修について、大阪市・奈良市と合同で受け入れました（オンライン開催）。
- ・他都市及び JICA との関係者会議を開催し、協議等を実施しました。



オンラインでの研修の様子

評価	
A	国際協力事業について、計画どおり協議等を実施したため、A 評価としました。

今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインの活用を含め、JICA 等を通じた海外からの研修・視察等の受入れを行います。 ・短期派遣を見据えて、JICA 能力強化研修の受講機会の設定を行います。
-------	--



方針① こたえる

分かりやすく伝え、しっかりと声を受け止め、市民の皆さまの期待に応え続けます

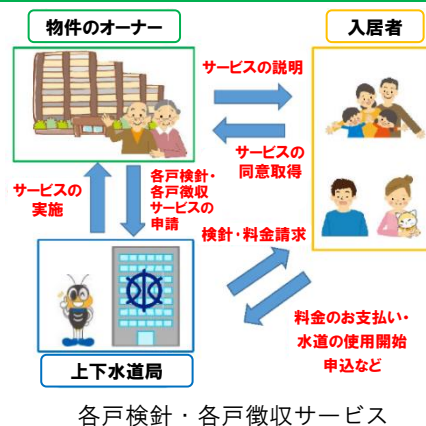
お客さまサービス、広報・広聴活動



4 教育 16 平和

取組① お客さま窓口機能の充実とマーケティング機能の強化

- ・お客さまニーズに応じたきめ細やかなサービスを展開するため、開栓受付時に鉛製給水管のご案内等を実施したほか、大口使用者への調査を実施しました。
- ・3階建て以上の民間賃貸マンションへの各戸検針・各戸徴収サービスについて、制度の周知を継続して実施しました。
- ・「窓口、電話対応のお客さま満足度」は **72.7%と目標(64.4%)を達成**しました。

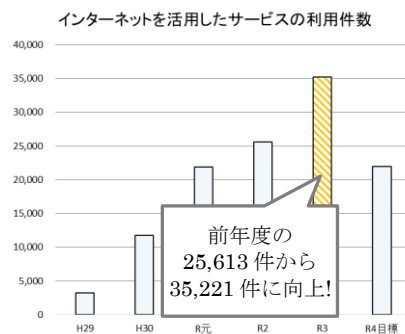


評価	
A	お客さま窓口機能の充実に係る取組等を計画どおり実施したため、A評価としました。

今後の取組	・お客さま応対向上に関する研修やお客さま窓口機能の充実等を継続して進め、窓口、電話対応のお客さま満足度の向上を目指します。
-------	---

取組② お客さまの声を反映した新たなサービスの展開

- ・水道使用履歴をインターネットで確認できる「みずみるネット」や、クレジットカード継続払いのインターネット申込の利用促進に取り組み、**利用件数は前年度(約2.5万件)を上回る約3.5万件に増加**しました。
- ・キャッシュレス決済・支払窓口の拡充を図ったほか、口座振替ウェブ受付の導入に向けた検討を実施しました。



評価	
A	インターネットを活用したお客さまサービスの利用促進等を計画どおり実施したため、A評価としました。

今後の取組	・利用者の拡大を目指し、上下水道局ホームページや事業用リーフレット等を活用して幅広く広報活動を展開していきます。
-------	--

取組③ 京の上下水道を未来へ継承する広報・広聴活動の推進

- ・水需要の喚起に向け、お風呂の利用促進やミスト、水飲みスポットの設置等を通じて、水道水を使った健やかで環境にも優しいライフスタイルを発信しました。
- ・また、コロナ禍や厳しい財政状況を鑑み、動画等の効果的な発信方法を用いて、市民の皆さまに水道・下水道をより身近に感じ、理解を深めていただくための広報を展開しました。



「紙兎ロペ」による入浴PR動画

評価	
B	対象や媒体を効果的に組み合わせた広報活動を実施しましたが、認知度の目標が未達成であったことを踏まえ、B評価としました。

今後の取組	・市民の重要なライフラインである水道・下水道への理解や水道水の利用促進だけでなく、経営も含めた事業への関心も深めていただけるよう、効果的な広報・広聴活動を展開します。
-------	---



琵琶湖疏水の魅力を高め、地球環境にやさしい事業運営により、まちやところをゆたかにします


文化や景観、地球環境に配慮した事業運営




取組① 琵琶湖疏水の魅力発信等による文化・景観や観光振興への貢献

- 琵琶湖疏水通船事業を引き続き支援したほか、日本遺産関連事業として、大津閘門改修設計をはじめ、疏水沿線の道標整備やマップ作成などを実施しました。また、文化観光推進法関連事業として、琵琶湖疏水記念館において、「KYOTOGRAFIE 京都国際写真祭」を開催するなど、屋外テラスの活用事業等に取り組みました。
- 公共下水道工事現場に障害のある方の芸術作品を展示する「青空美術館」を実施しました。

評価	新型コロナウイルス感染症の影響等により琵琶湖疏水記念館来館者数の目標が未達成であったことを踏まえ、B評価としました。
今後の取組	琵琶湖疏水記念館における情報発信と琵琶湖疏水通船事業の推進などによって、琵琶湖疏水の魅力向上と情報発信を進めます。



ウォーキングマップ



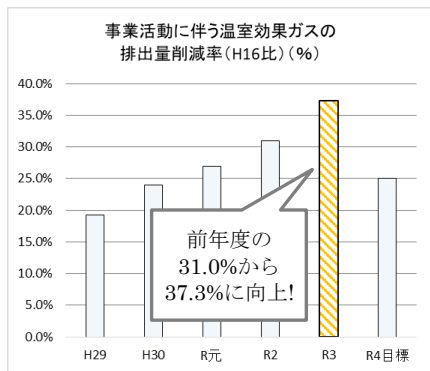
道標デザイン KYOTOGRAFIE

取組② 創エネルギー・省エネルギーによる低炭素社会の実現への貢献

- 浄水場・水環境保全センターに設置する**大規模太陽光発電設備や、固形燃料化施設など設備の更新工事に合わせた創エネ・省エネ・高効率機器の導入**を進めました。
- 上下水道局施設における環境マネジメントシステムの継続的運用を図りました。
- これらの取組の結果、「**事業活動に伴う温室ガスの排出量削減率**」は目標（25.0%）を上回る**37.3%に向上**しました。

評価	温室効果ガス排出量削減のための取組等を計画どおり実施し、温室効果ガスの排出を抑制できたことからA評価としました。
今後の取組	太陽光発電等による創エネルギーの取組や、高効率機器の導入等による省エネルギーの取組を進めます。 環境マネジメントシステムを継続的に運用し、温室効果ガス排出量の削減を図ります。

事業活動に伴う温室効果ガスの排出量削減率(H16比) (%)



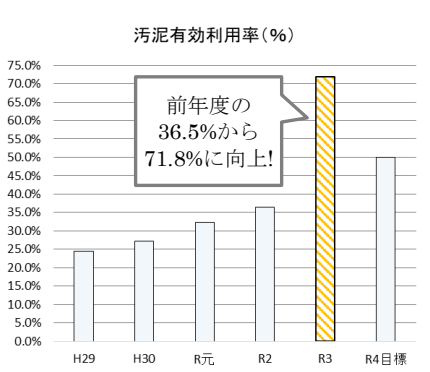
前年度の31.0%から37.3%に向上!

取組③ 地球環境にやさしい循環型まちづくりへの貢献

- 下水汚泥の有効利用の促進等を目的とした**固形燃料化施設（鳥羽水環境保全センター内）の稼働を開始**しました。
- 下水汚泥から生成する消化ガスの利用や脱水汚泥及び焼却灰のセメント原料への利用等、下水汚泥の有効活用を推進（利用総量 20,699 トン）し、「**下水汚泥有効利用率**」は目標（50.0%）を上回る**71.8%に向上**しました。

評価	下水汚泥処理施設の再構築や下水汚泥の有効活用促進の取組を計画どおり実施し、多くの汚泥を有効利用することができたことからA評価としました。
今後の取組	下水汚泥の有効活用を継続します。

汚泥有効利用率 (%)



前年度の36.5%から71.8%に向上!



これまで培ってきた技術をしっかりと継承し、
京の水の担い手を育て、きずなを強めます

職員の育成、市民・事業者の皆さまとの連携



9 イノベーション

17 実施手段

取組① 将来にわたり水道・下水道を支え続ける企業力の向上

- ・技術継承の取組として、**採用5年目までを対象とする「専門技術研修」を継続**するとともに、水道技術研修施設（太秦庁舎敷地内）及び下水道技術研修施設（鳥羽水環境保全センター敷地内）において、上下水道局職員向けの研修等を実施しました。
- ・若手職員の意欲向上を図る取組として、民間企業との相互研修において双方の若手職員が参加し、意見交換会を実施しました。
- ・コンプライアンスのより一層の意識向上のため、外部講師による研修を計画的に実施するとともに、サービス監視及び業務監視についても引き続き実施しました。



下水道技術研修施設



水道技術研修施設での研修
(高所受水槽への補給の様子)

評 価	
A	技術力の向上・技術継承に向けた取組等を計画どおり実施したため、A評価としました。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・技術研修の効果を検証し、結果を踏まえ、見直しと充実を図る仕組みである技術研修マネジメントシステムを運用することで、効果的な研修を実施します。 ・資格取得支援制度の利用促進等自己研さんを支援する職場環境づくりを進めます。

取組② 京の水をともに支える市民・事業者の皆さまとの更なる連携

- ・市民の皆さまに事業をよりご理解いただけるよう、水道メーター検針訪問時に合わせ、**水道・下水道の事業PRリーフレットを3回にわたり配布**しました。
- ・市民講座として、疏水記念館で著名人による対談を行い、その内容を京都リビング新聞に掲載したほか、山科区公式アプリ「やましな+」を用いたデジタルスタンプラリーを実施しました。
- ・公契約基本条例に基づく取組として、分離分割発注等による市内中小企業の受注等の機会の増大、対象となる公契約の受注者からの労働関係法令遵守状況報告書の提出、下請業者の社会保険等加入対策の強化などを引き続き実施しました。



検針時配布リーフレット



琵琶湖疏水 紙面对談

評 価	
A	市民・事業者の皆さまと一体となった事業推進に向けて情報発信等の取組を計画どおり実施したため、A評価としました。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の活用や市民向け講座の開催などによって、市民・事業者の皆さまと連携した取組を更に推進します。



50年後、100年後を見据えた経営を行い、
将来にわたって京の水を支え続けます

事業の効率化など、長期的な視点に立った経営



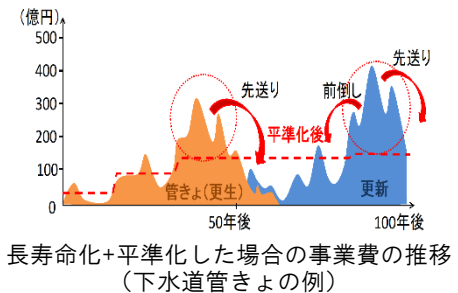
6 水・衛生



9 イノベーション

取組① 施設マネジメントの実践等によるライフサイクルコストの縮減

- ・優先順位を踏まえて建設・改築更新事業計画を策定し、これに基づき改築更新・耐震化の取組を推進しました。
- ・庁舎長期修繕計画に基づき、改修の取組を推進しました。
- ・適正な工事検査を実施することにより、品質の確保を図り、施工管理の強化を進めました。



評価	建設・改築更新事業等について計画どおりに進捗したことから、A評価としました。
A	
今後の取組	・優先順位を踏まえて作成した建設事業計画に基づき、関係部署との連携の下で、より効果的・効率的な改築更新、耐震化の取組を推進します。

取組② 業務執行体制の見直しや民間活力の導入等による経営の効率化

- ・鳥羽水環境保全センターの下水汚泥固形燃料化炉の運転管理業務を委託化しました。
- ・業務システムに係る新たな技術導入に向けた調査・研究として、RPAの試験導入等を実施しました。



固形燃料化炉の運転管理業務

評価	業務執行体制の効率化・活性化の取組を計画どおり実施したため、A評価としました。
A	
今後の取組	・プランに掲げる業務執行体制の見直しや民間活力の導入等経営の効率化を進めます。

取組③ 将来にわたって事業を持続していくための財務体質の更なる強化

- ・これまでに確保した積立金等の自己資金を活用し、企業債残高について目標どおり水道は8億円、下水道は94億円の削減を図りました（前年度決算比、以下同じ）。また、企業債残高の削減等により総支払利息を削減しました。
- ・保有資産の有効活用を進め、引き続き山ノ内浄水場跡地等の貸付を実施するとともに、旧九条山浄水場跡地、北部給水工事課跡地、きた下水道管路管理センター跡地等を売却しました。

















評価	財政基盤強化に向けた取組を計画どおり実施したため、A評価としました。
A	
今後の取組	・引き続き、経費削減に努めることでプラン目標達成を目指します。

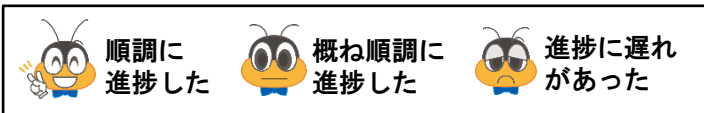
取組④ 継続的な経営改善の推進と適正な料金施策の検討

- ・プランに基づく単年度計画を策定し、実施状況について定期的な進捗管理を実施しました。
- ・経営審議委員会を3回開催し、経営評価や次年度計画、水に関する意識調査の設問項目等について審議いただきました。
- ・前中期経営プランや料金改定の効果検証等、料金・使用料制度の分析を進めました。

評価	継続的な経営改善の推進等について、計画どおり実施したためA評価としました。
A	
今後の取組	・経営審議委員会などの意見を踏まえ、経営評価制度の充実を図ります。 ・料金制度に係る課題の抽出及び調査・研究を進めます。

【プランの目標に対する評価】

視点	方針	プラン最終年度（令和4年度末）の目標	取組					
① 京の水をみらいへつなぐ	① つくる	取組① 水源から蛇口までの水質管理の徹底 ・「水道 GLP」の認定維持 ・異臭（かび臭）のない水達成率 100%	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	 順調!
		取組② 原水水質の変化に対応した最適な浄水処理の推進 ・高機能な粉末活性炭注入設備設置工事に着手（蹴上浄水場） ・施設に関する基本情報データベースの運用及び更新・充実	H30	R 元	R2	R3		 順調!
		取組③ 安定的に水道水をつくるための基幹施設の改築更新・耐震化 ・新山科浄水場導水トンネル築造工事実施 ・浄水施設の耐震化率 76% ・配水池の耐震化率 54%	H30	R 元	R2	R3		 順調!
	② はじめる	取組① 配水管等の適切な維持管理の推進 ・有収率 91.0%	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	 順調!
			H30	R 元	R2	R3		 順調!
		取組② 安定的に水道水を供給するための配水管の更新・耐震化 ・老朽配水管の解消率 47% ・主要管路の耐震適合性管の割合 58%	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	 順調!
			H30	R 元	R2	R3		 順調!
		取組③ 安全・安心な水道水をお届けするための給水サービスの向上 ・貯水槽水道の設置者への啓発・助言の継続実施（調査対象設置者を概ね一巡） ・指定給水装置工事事業者への指導の継続実施	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	 順調!
			H30	R 元	R2	R3		 概ね順調
	③ きれいにする	取組④ 下水道管路の適切な維持管理の推進 ・データベースを活用した効果的・効率的な維持管理の推進	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	 順調!
			H30	R 元	R2	R3		 順調!
		取組⑤ 優先度を踏まえた下水道管路の改築更新・耐震化 ・下水道管路改築・地震対策率 28%	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	 概ね順調
④ まもる	取組⑥ 適切に下水道をお使いいただくための啓発や勧奨 ・全戸訪問による水洗化勧奨の継続実施 ・工場・事業場への立入検査による監視及び指導の継続実施	H30	R 元	R2	R3		 概ね順調	
		取組① 下水の高度処理や適切な水質管理による処理水質の維持・向上 ・データベースを活用した効果的・効率的な維持管理の推進 ・高度処理管理目標水質達成率 100%	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	 順調!
	取組② 水環境保全センター施設の再構築 ・処理施設の改築更新数 37 施設	H30	R 元	R2	R3		 順調!	
④ まもる	取組③ 健全な水環境を保全するための合流式下水道の改善 ・合流式下水道改善率 96%	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	 概ね順調	
		H30	R 元	R2	R3		順調!	
	取組① 「公助」としての災害に強い施設整備や危機管理体制の強化 ・南北2か所の事業・防災拠点の整備を踏まえた危機管理体制の確立	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	概ね順調	
取組② 「自助」の意識啓発や「共助」の推進による災害対応力の強化 ・飲料水の備蓄率 55%	H30	R 元	R2	R3		順調!		
取組③ 「雨に強いまちづくり」を実現するための浸水対策の推進 ・雨水整備率（10年確率降対応）33%	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	順調!		
		H30	R 元	R2	R3		順調!	



視点	方針	プラン最終年度（令和4年度末）の目標							
①京の水をみらいへつなぐ	⑤いどむ	取組① 常に発展し続けるための新技術の調査・研究 ・新技術等の調査研究件数 90 件	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	順調!	
		取組② 広域化・広域連携におけるリーダーシップの発揮 ・京都府及び周辺市町村との業務の共同化を含めた更なる連携	H30	R 元	R2	R3			順調!
		取組③ 国際委協力事業の推進と国際貢献を通じた職員の育成 ・JICA 等を通じた海外からの受入れの継続と短期専門家派遣の開始	H30	R 元	R2	R3			順調!

視点	方針	プラン最終年度（令和4年度末）の目標							
②京の水でしるをはぐくむ	①こたえる	取組① お客さま窓口機能の充実とマーケティング機能の強化 ・4 営業所で業務を執行 ・窓口、電話対応のお客さま満足度 65%	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	順調!	
		取組② お客様の声を反映した新たなサービスの展開 ・インターネットを活用したサービスの利用件数 累計 45,000 件	H30	R 元	R2	R3			順調!
		取組③ 京の上下水道を未来へ継承する広報・広聴活動の推進 ・広報活動の認知度 35%	H30	R 元	R2	R3			概ね順調
	②ゆたかにする	取組① 琵琶湖疏水の魅力発信等による文化・景観や観光振興への貢献 ・琵琶湖疏水記念館来館者数 累計 310 万人	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目		概ね順調
		取組② 創エネルギー・省エネルギーによる低炭素社会の実現への貢献 ・事業活動に伴う温室効果ガスの排出量削減率 (2014 (平成 16) 年度比) 25%	H30	R 元	R2	R3			順調!
		取組③ 地球環境にやさしい環境型まちづくりへの貢献 ・下水汚泥有効利用率 50%	H30	R 元	R2	R3			順調!

視点	方針	プラン最終年度（令和4年度末）の目標							
③京の水をささえつづける	①になう	取組① 将来にわたり水道・下水道を支え続ける企業力の向上 ・技術系資格保持者の割合 40%	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	順調!	
		取組② 京の水をともに支える市民・事業者の皆さまとの更なる連携 ・市民・事業者の皆さまと連携した取組の更なる推進	H30	R 元	R2	R3			順調!
	②やみくも	取組① 施設マネジメントの実践等によるライフサイクルコストの縮減 ・施設マネジメントの実践や工事検査の手法改善によるコスト縮減	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目		順調!
		取組② 業務執行体制の見直しや民間活力の導入等による経営の効率化 ・職員定数 1,149 人	H30	R 元	R2	R3			順調!
		取組③ 将来にわたって事業を持続していくための財務体質の更なる強化 ・下水道の大規模更新に備えた積立金 50 億円 ・企業債残高 4,149 億円	H30	R 元	R2	R3			順調!
		取組④ 継続的な経営改善の推進と適正な料金施策の検討 ・経営評価制度の充実 ・次期中期経営プラン期間における料金・使用料体系・水準の検討	H30	R 元	R2	R3			順調!

2 財務指標等に基づく中長期の分析（経営指標評価）

経営指標評価は、財務指標を中心とした業務指標を活用して中長期的な経営分析を行うものであり、前年度数値との比較を行う「指標値の前年度比較」と、偏差値を用いて大都市平均との比較を行う「大都市比較から見る京都市の特徴」の2つの視点で分析します。

業務指標については、水道、下水道のサービスの国際規格である「水道事業ガイドライン」及び「下水道維持管理サービス向上のためのガイドライン」に加え、総務省の「経営比較分析表」に用いられている業務指標を踏まえ、水道は24指標、下水道は25指標を選定しています。

<評価区分と評価のポイント>



7つの評価区分ごとに、複数の業務指標を用いて総合的に評価します。

①収益性

独立採算により運営している京都市の水道事業、公共下水道事業において、水道料金や下水道使用料等による収益性を見ることで、経営状況を判断することができます。

②資産・財務

水道水を供給するには大規模な浄水場や配水管等が、汚水や雨水を処理するには大規模な処理場や下水道管等が必要です。これらの重要な施設を維持し、安定した事業運営を継続して行うため、資産・財務について把握することが重要です。

③老朽化対策

高度経済成長期を中心に整備された水道・下水道施設の老朽化の状況を把握することで、将来の施設の改築等の必要性を判断することができます。

④施設の効率性

水道、下水道の施設能力に対する利用状況や稼働率を把握することで、施設規模の適正化といった、経営効率を高める施策の必要性を判断することができます。

⑤生産性

水道事業は水道水を生産・供給して得られる水道料金によって、公共下水道事業は下水道使用料によって運営しているので、その生産性を把握することで、事業の効率性を判断することができます。

⑥料金・使用料

水道事業ではおいしい水道水を安全かつ安定的に供給することを目指し、公共下水道事業では快適で衛生的な市民生活を支えるとともに、市民の生命と財産を守るという社会的な責務を果たしつつ、それぞれできる限りお客さまの負担を減らすことが求められています。そのため、お客さまに負担していただく料金・使用料が適切な水準にあるかどうかを検証することが重要です。

⑦費用

上下水道事業の運営には、施設・管路等の維持管理費や減価償却費、施設・管路等を建設するために借りた資金の利息など、様々な経費が必要となります。効率的な事業運営をするうえで、費用が適切な水準にあるかどうかを検証することができます。

各指標の定義などの詳細については、ホームページに掲載されている詳細版の冊子で解説しています。

<https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000256578.html>



<各ページの見方について>

評価区分やそれに関する業務指標名、その指標でみている内容等を記載しています。
また下部では今年度の結果の総括及び今後の方向性を記載しています

指標値の前年度比較 (p27~p30)

業務指標名 (評価要素)	単位	目指すべき方向	指標値	前年度からの改善度
経常収支比率 (収支の均衡)	%	↑	114.2 (114.2)	→
料金回収率 (料金と費用の均衡)	%	↑	103.6 (104.3)	↓
固定資産回転率 (資産の効率性)	回	↑	0.086 (0.087)	↓
結果	前年度と比べ、薬品費の増加や大雨による土砂浚渫量の増加等の影響で、経常費用が増加したことにより「料金回収率」は低下しましたが、配水工事収益の増加等の影響で収益も増加したため「経常収支比率」は横ばいでした。また、配水管更新の推進による取得資産の増加により、「固定資産回転率」は低下しました。			
方向性	新型コロナの影響の収束について見通しは不透明ですが、節水型社会の定着及び人口減少による水需要の減少は今後も継続すると予想されることから、プランに掲げる経営効率化を一層推進し、財務体質の強化に努めます。			

【目指すべき方向】

数値が増加した方が良いものは↑
数値が減少した方が良いものは↓
で示しています

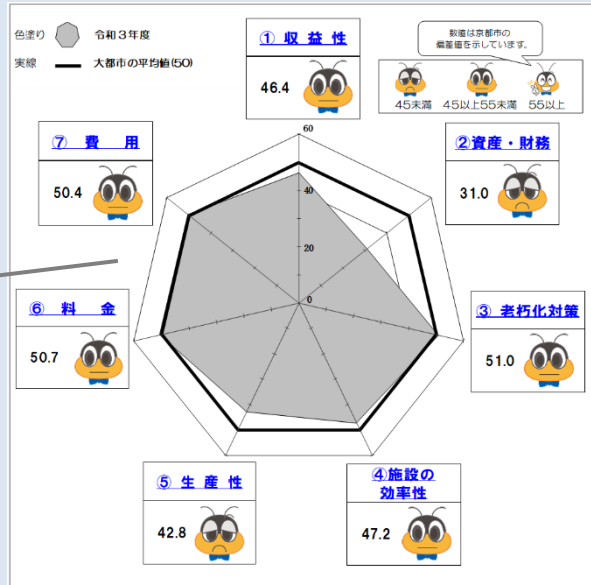
【指標値】

上段に今年度の数値、下段に昨年度の数値を記載しています。
右側の矢印は前年度比での増減を示しています。
目指すべき方向に対して昨年度より悪化したものは網掛けしています。

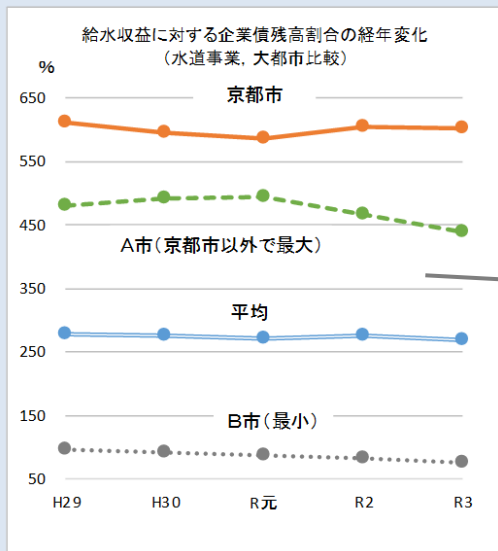
京都市と大都市平均の状況を評価区分ごとに偏差値を算出し、比較しています。

色塗り部分が京都市を、太枠部分が大都市平均を表しています。

大都市比較から見る京都市の特徴 (p31、p33)



指標値の大都市比較から見た中長期の課題 (p32、p34)



一部の指標について、京都市と大都市の平均、その指標値が最大の都市及び最小の都市を経年で比較しています。

(1) 指標値の前年度比較

前年度を100として改善度を示しています



ア 水道事業

令和3年度は、引き続き企業債残高の削減など財務体質の強化等に努めたものの、新型コロナウイルスの影響により令和2年度に増加した家庭用の使用水量が減少に転じたこと、令和2年度に著しく減少した事業用の使用水量も小幅な増加に留まったことから、有収水量が減少し「④施設の効率性」が悪化しました。

一方で、職員定数の削減により、「⑤生産性」は改善しました。


「①収益性」、「②資産・財務」、「③老朽化対策」、「⑥料金」及び「⑦費用」については大きな増減はなく、おおむね横ばい（前年度並み）となりました。


上段：令和3年度(下段：令和2年度)


業務指標名 (評価要素)		単位	目指すべき方向	指標値		前年度からの改善度
① 収益性	経常収支比率 (収支の均衡)	%	↑	114.2 (114.2)	→	🐝
	料金回収率 (料金と費用の均衡)	%	↑	103.6 (104.3)	↓	
	固定資産回転率 (資産の効率性)	回	↑	0.086 (0.087)	↓	
	結果	前年度と比べ、薬品費の増加や大雨による土砂浚渫量の増加等の影響で、経常費用が増加したことにより「料金回収率」は低下しましたが、配水工事収益の増加等の影響で収益も増加したため「経常収支比率」は横ばいでした。また、配水管更新の推進による取得資産の増加により、「固定資産回転率」は低下しました。				
方向性	新型コロナウイルスの影響の収束について見通しは不透明ですが、節水型社会の定着及び人口減少による水需要の減少は今後も継続すると予想されることから、プランに掲げる経営効率化を一層推進し、財務体質の強化に努めます。					


業務指標名 (評価要素)		単位	目指すべき方向	指標値		前年度からの改善度
② 資産・財務	企業債償還元金対減価償却費比率 (投下資本と再投資とのバランス)	%	↓	87.1 (77.9)	↑	🐝
	給水収益に対する企業債残高の割合 (企業債が資金収支に及ぼす影響)	%	↓	601.5 (603.8)	↓	
	自己資本構成比率 (財務の健全性)	%	↑	50.8 (49.4)	↑	
	流動比率 (短期債務に対する支払能力)	%	↑	68.5 (65.0)	↑	
	累積欠損金比率 (事業経営の健全性)	%	↓	0.0 (0.0)	→	
	結果	配水管更新のスピードアップによる減価償却費の増加以上に企業債償還元金の増加が大きく「企業債償還元金対減価償却費比率」は上昇（悪化）しましたが、企業債残高の削減を進めたことにより「給水収益に対する企業債残高の割合」は改善、当年度純利益等の確保による資本金の増加により「自己資本構成比率」は向上、工事負担金等の増加による未収金の増加により流動資産が増加し「流動比率」は向上しました。				
方向性	老朽化した水道管の更新財源に充てることのできる利益を確保するとともに、企業債残高の削減を進め、財務体質の強化に努めます。					

業務指標名 (評価要素)		単位	目指すべき方向	指標値		前年度からの改善度
③ 老朽化対策	有形固定資産減価償却率 (有形固定資産の減価償却の進捗度)	%	↓	48.0 (47.5)	↑	🐝
	法定耐用年数超過管路率 (法定耐用年数を超過した管路の割合)	%	↓	37.8 (37.2)	↑	
	管路の更新率 (管路の更新ペース)	%	↑	1.3 (1.4)	↓	
	結果	配水管更新を推進しているものの、新設管の布設により全延長が増加したことで「管路の更新率」はほぼ横ばい(1.35→1.34)でしたが、それを上回るペースで既存管路・施設の老朽化が進んでいることから、「有形固定資産減価償却率」及び「法定耐用年数超過管路率」は上昇（悪化）しました。				
方向性	ビジョンの目標である令和9年度の「老朽配水管の解消率76%」の達成と14年度までの解消を目指し、引き続き、配水管の更新を計画的・効率的に進めます。					

業務指標名 (評価要素)		単位	目指すべき 方 向	指標値		前年度から 改善度
④ 施設の 効率性	施設利用率 (水道施設の効率性)	%	↑	64.6 (65.4)	↓	98.6 
	最大稼働率 (水道施設の効率性)	%	↑	69.1 (71.7)	↓	
	固定資産使用効率 (施設の使用効率)	m³/万円	↑	5.3 (5.5)	↓	
	有収率 (配水量のうち収益になるものの割合)	%	↑	91.8 (91.1)	↑	
結果	「有収率」は向上したものの、家庭用の使用水量の減少等により前年度と比べ配水量が減少したため、「施設利用率」及び「固定資産使用効率」は低下しました。また、前年度は1月初旬の寒波の影響により1日当たり最大配水量が増加しましたが、令和3年度はそのような事情がなく、「最大稼働率」は低下しました。					
方向性	漏水対策として、老朽化している水道管の更新等を進め、更なる有収率の向上に努めるとともに、水需要に見合った施設規模の在り方について検討を続けます。					

業務指標名 (評価要素)		単位	目指すべき 方 向	指標値		前年度から 改善度
⑤ 生産性	職員1人当たり給水収益 (給水収益を基準とした生産性)	千円/人	↑	44,280 (43,399)	↑	101.6 
	職員1人当たり有収水量 (水道サービス全般の効率性)	千m³/人	↑	271 (266)	↑	
	職員1人当たり配水量 (水道サービス全般の効率性)	千m³/人	↑	295 (293)	↑	
	結果	経営の効率化などによる職員数の削減を進めたことにより、「職員1人当たり給水収益」、「職員1人当たり有収水量」及び「職員1人当たり配水量」の全指標が向上しました。				
方向性	「第6期効率化推進計画」に基づき、更なる経営の効率化を進め、生産性の向上に努めます。					

業務指標名 (評価要素)		単位	目指すべき 方 向	指標値		前年度から 改善度
⑥ 料金	供給単価 (水道事業で得られる1m³当たりの収益)	円/m³	↓	163.3 (162.9)	↑	99.9 
	1か月10立方メートル当たり家庭用料金 (契約者の経済的利便性)	円	→	970 (970)	→	
	1か月20立方メートル当たり家庭用料金 (契約者の経済的利便性)	円	→	2,740 (2,740)	→	
	結果	新型コロナの影響により有収水量の減少が続いているものの、高単価の事業用で使用水量が回復傾向にあることから、給水収益の減少幅が有収水量の減少幅より小さくなり、「供給単価」は上がりました。なお、下記の「給水原価」も上がっている（悪化）ものの、「供給単価」を下回っていることから、給水に係る費用は料金収入により適正に確保されています。				
方向性	経営の効率化を更に進め、引き続き他都市に比べ安価な料金水準を維持します。					

業務指標名 (評価要素)		単位	目指すべき 方 向	指標値		前年度から 改善度
⑦ 費用	給水原価 (水道事業にかかる1m³当たりの費用)	円/m³	↓	157.6 (156.2)	↑	99.0 
	給水原価（維持管理費）	円/m³	↓	80.9 (79.3)	↑	
	給水原価（資本費）	円/m³	↓	76.7 (76.8)	↓	
	結果	企業債残高の削減を進めたことで支払利息が減少したことにより、「給水原価（資本費）」は下がりました（改善）。一方、薬品費の増加や大雨による土砂浚渫量の増加等により経常費用は増加したことから、「給水原価」及び「給水原価（維持管理費）」は上がりました（悪化）。				
方向性	今後もプランに基づき、経営の効率化や、企業債残高の削減による支払利息の削減等を図ります。					

前年度を100
として改善度を
示しています



101 以上



99 以上 101 未満



99 未満

イ 公共下水道事業

令和3年度は、前年度と比べて有収汚水量は減少したものの、企業債残高の削減など財務体質の強化に努めたこと等により「①収益性」及び「⑦費用」が改善しました。また、降雨量の増加に伴う処理水量の増加により「④施設の効率性」が、職員数の削減により「⑤生産性」がそれぞれ改善しました。


「②資産・財務」、「③老朽化対策」及び「⑥使用料」については大きな増減はなく、おおむね横ばい（前年度並み）となりました。


上段: 令和3年度(下段: 令和2年度)


業務指標名 (評価要素)		単位	目指すべき 方向	指標値		前年度からの 改善度
① 収益性	経常収支比率 (収支の均衡)	%	↑	108.3 (106.8)	↑	101.5
	経費回収率 (使用料と費用の均衡)	%	↑	112.0 (109.0)	↑	
	固定資産回転率 (資産の効率性)	回	↑	0.058 (0.058)	→	
	結果	前年度と比べ、企業債残高の削減に伴う支払利息の減少や経費削減等による費用の減少が大きく、「経常収支比率」及び「経費回収率」は向上しました。一方で、「固定資産回転率」は、減価償却費等の増加により固定資産が減少しているものの、一般会計繰入金金の減少等により営業収益が減少したことにより、横ばいとなりました。				
方向性	新型コロナウイルスの影響の収束について見通しは不透明ですが、節水型社会の定着及び人口減少による水需要の減少は今後も継続すると予想されることから、プランに掲げる経営効率化を一層推進し、財務体質の強化に努めます。					


業務指標名 (評価要素)		単位	目指すべき 方向	指標値		前年度からの 改善度
② 資産・ 財務	固定資産対長期資本比率 (経営の安定性)	%	↓	103.0 (103.0)	→	100.8
	企業債残高対事業規模比率 (企業債が資金収支に及ぼす影響)	%	↓	455.8 (468.7)	↓	
	自己資本構成比率 (財務の健全性)	%	↑	60.5 (59.5)	↑	
	流動比率 (短期債務に対する支払能力)	%	↑	46.8 (46.5)	↑	
	累積欠損金比率 (事業経営の健全性)	%	↓	0.0 (0.0)	→	
	結果	企業債残高の削減など財務体質の強化に努めたこと等により、「自己資本構成比率」は向上、「企業債残高対事業規模比率」は改善しました。「固定資産対長期資本比率」はほぼ横ばいでしたが、「流動比率」については、建設改良積立金の確保による流動資産の増加により向上しました。				
方向性	引き続き、企業債残高を削減することで財務体質を強化し、将来の利息負担の軽減を図ります。					

業務指標名 (評価要素)		単位	目指すべき 方向	指標値		前年度からの 改善度
③ 老朽化 対策	有形固定資産減価償却率 (有形固定資産の減価償却の進捗度)	%	↓	54.9 (53.9)	↑	99.3
	施設の経年化率(管きよ) (法定耐用年数を超過した管きよの割合)	%	↓	18.6 (17.6)	↑	
	管きよ改善率 (管きよの改善ペース)	%	↑	0.2 (0.3)	↓	
	結果	管きよ等の改築更新を上回るペースで老朽化が進んだため、「有形固定資産減価償却率」及び「施設の経年化率(管きよ)」は上昇(悪化)、「管きよ改善率」は低下しました。				
方向性	今後もプランに基づき、健全度の低下や破損状況等を把握するための管路内調査を計画的に行うとともに、破損等のリスクが高い旧規格の管路について、布設替えや管更生を実施し、優先度を踏まえた改築更新を進めます。					

業務指標名 (評価要素)		単位	目指すべき 方向	指標値		前年度からの 改善度
④ 施設の 効率性	施設利用率 (下水道施設の効率性)	%	↑	56.5 (56.7)	↓	101.4 
	最大稼働率 (下水道施設の効率性)	%	↑	96.1 (92.4)	↑	
	固定資産使用効率 (施設の使用効率)	m ³ /万円	↑	5.28 (5.10)	↑	
	有収率 (汚水処理水量のうち収益になるものの割合)	%	↑	57.7 (57.7)	→	
	水洗化率 (水洗化の割合)	%	↑	99.3 (99.3)	→	
結果	降雨量の増加に伴う処理水量の増加により「最大稼働率」及び「固定資産使用効率」は向上しました。「有収率」は横ばいでしたが、新型コロナウイルスの影響により令和2年度に増加した家庭用の使用水量が減少に転じたこと、令和2年度に著しく減少した事業用の使用水量も小幅な増加に留まったことから、有収汚水量が減少したこと等により、「施設利用率」は低下しました。					
方向性	老朽化した管路の改築更新を計画的に進めるとともに、施設規模の適正化を図り、より効率的な施設体系を構築します。					

業務指標名 (評価要素)		単位	目指すべき 方向	指標値		前年度からの 改善度
⑤ 生産性	職員1人当たり使用料収入 (下水道事業で得られる収益)	千円/人	↑	49,511 (48,740)	↑	102.2 
	職員1人当たり有収汚水量 (下水道サービス全般の効率性)	千m ³ /人	↑	420 (415)	↑	
	職員1人当たり総処理水量 (下水道サービス全般の効率性)	千m ³ /人	↑	848 (818)	↑	
結果	④と同様に有収汚水量は減少したものの、経営の効率化などによる職員数の削減を進めたことにより、「職員1人当たり使用料収入」、「職員1人当たり有収汚水量」及び「職員1人当たり総処理水量」は向上しました。					
方向性	「第6期効率化推進計画」に基づき、更なる経営の効率化を進め、生産性の向上に努めます。					

業務指標名 (評価要素)		単位	目指すべき 方向	指標値		前年度からの 改善度
⑥ 使用料	使用料単価 (1m ³ 当たりの使用料収入)	円/m ³	↓	117.9 (117.4)	↑	99.9 
	1か月10立方メートル当たり家庭用使用料 (契約者の経済的利便性)	円	→	700 (700)	→	
	1か月20立方メートル当たり家庭用使用料 (契約者の経済的利便性)	円	→	1,830 (1,830)	→	
結果	④と同様に有収汚水量が減少したこと、また、使用料収入が増加したことにより、「使用料単価」は上がりました(悪化)。					
方向性	経営の効率化を更に進め、引き続き他都市に比べ安価な使用料水準を維持します。					

業務指標名 (評価要素)		単位	目指すべき 方向	指標値		前年度からの 改善度
⑦ 費用	汚水処理原価 (汚水処理にかかる1m ³ 当たりの費用)	円/m ³	↓	105.2 (107.7)	↓	102.3 
	汚水処理原価(維持管理費)	円/m ³	↓	48.9 (49.6)	↓	
	汚水処理原価(資本費)	円/m ³	↓	56.3 (58.1)	↓	
結果	④と同様に有収汚水量は減少したものの、人件費や物件費の抑制のほか、企業債残高の削減による支払利息の減少等により汚水処理費が減少したことから、「汚水処理原価」は下がりました(改善)。					
方向性	今後もプランに基づき、経営の効率化や、企業債残高の削減による支払利息の削減等を図ります。					

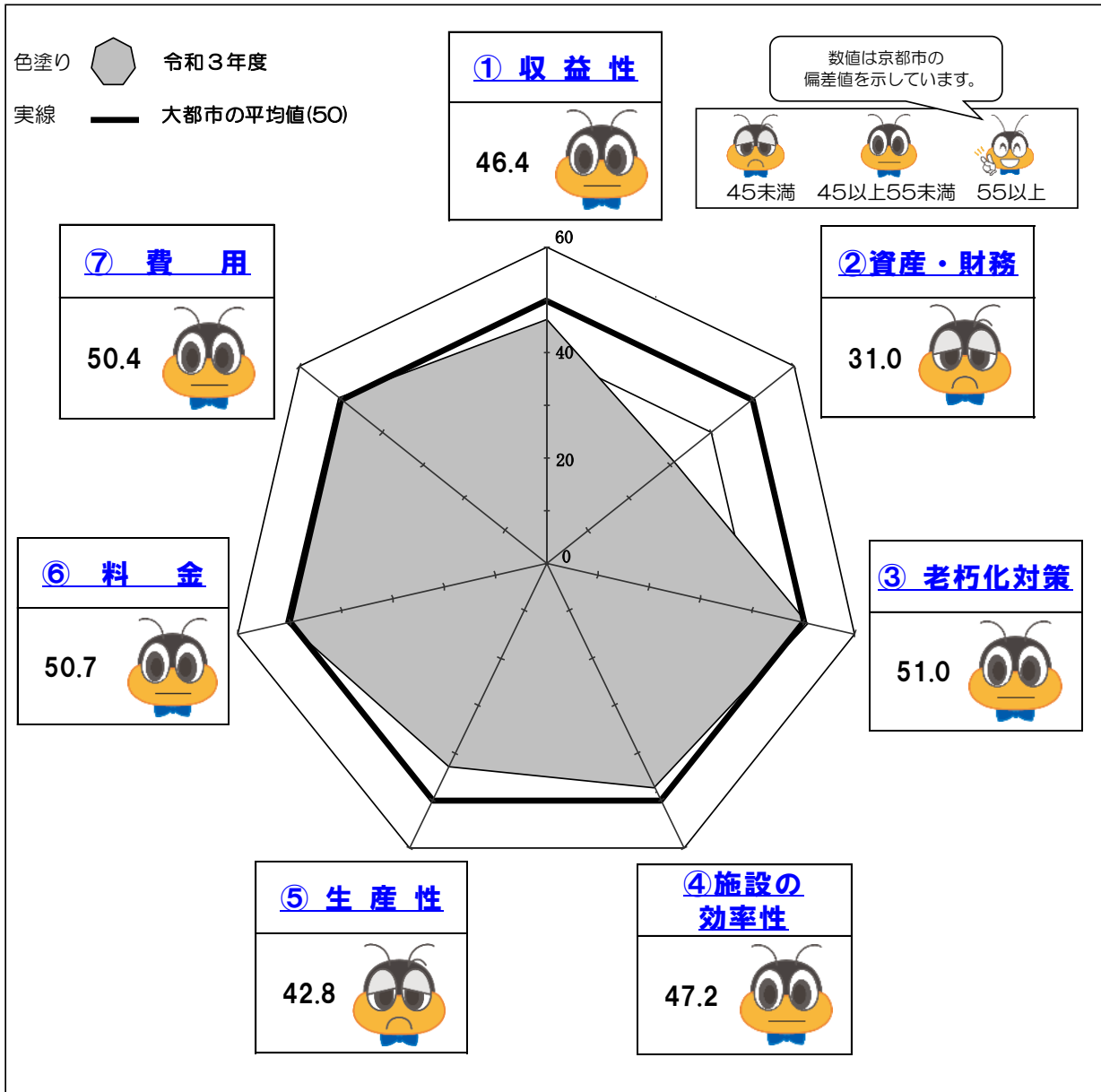
(2) 大都市比較から見る京都市の特徴及び中長期の課題（水道事業）

偏差値による大都市比較は、京都市の水道事業の特徴を表すものです。

京都市の水道事業は、安全・安心な水道水を供給するために必要な施設の改築更新などの財源について、企業債に依存している割合が高いことから「②資産・財務」が、他の事業者からの水道水の受水の有無（京都市は琵琶湖から原水を取水）などの事業の運営形態の違い等により「⑤生産性」が、それぞれ低くなっています。

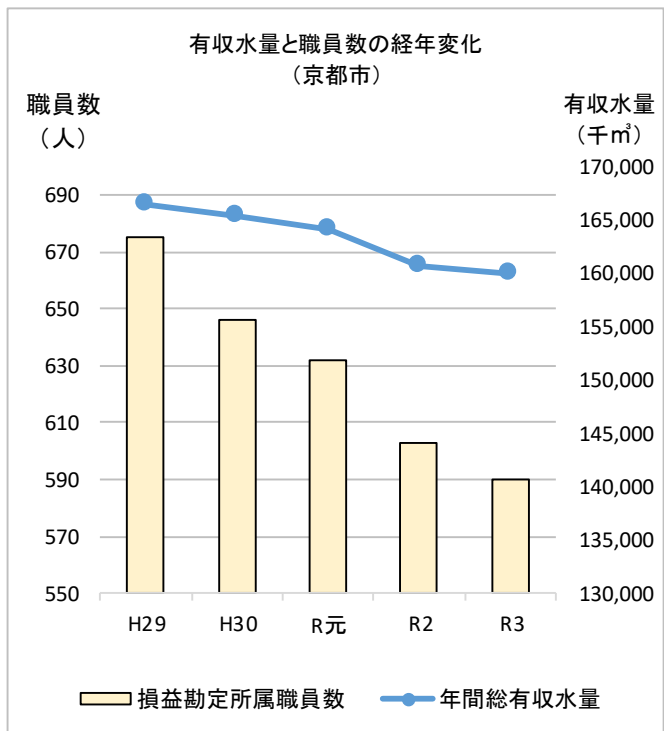
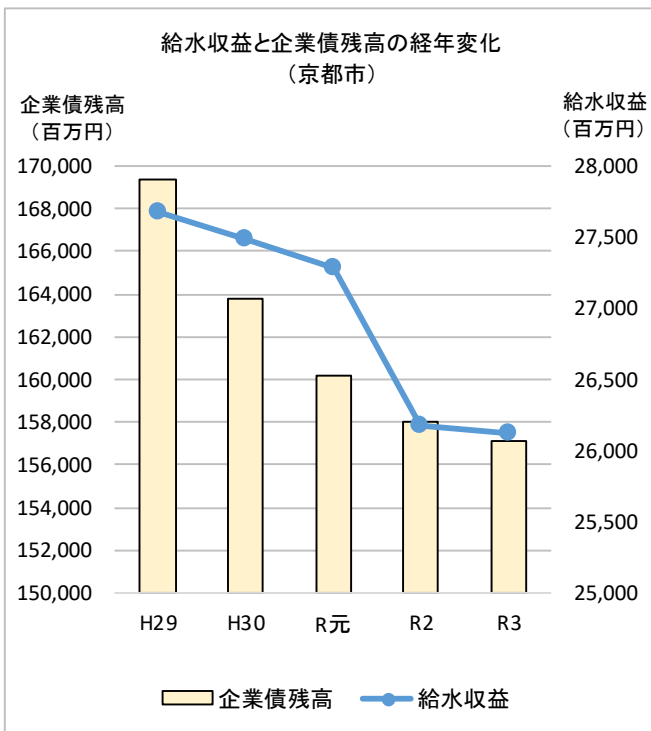
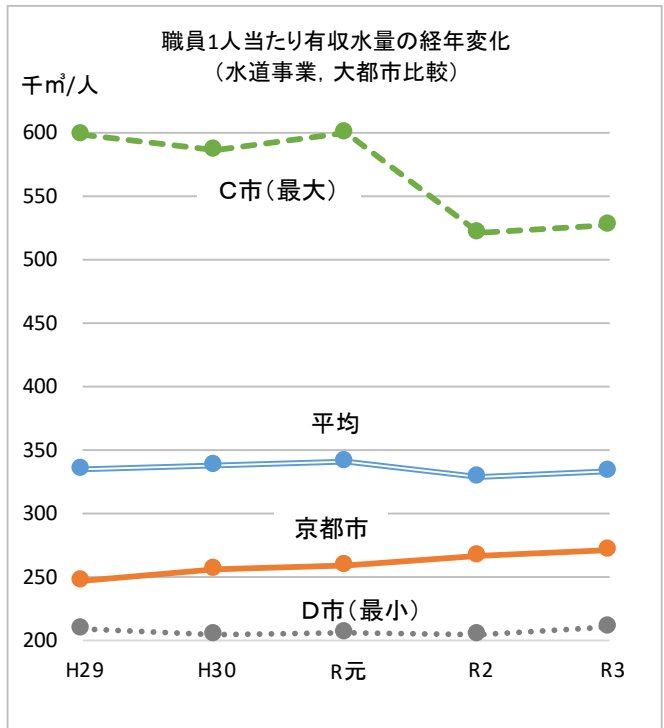
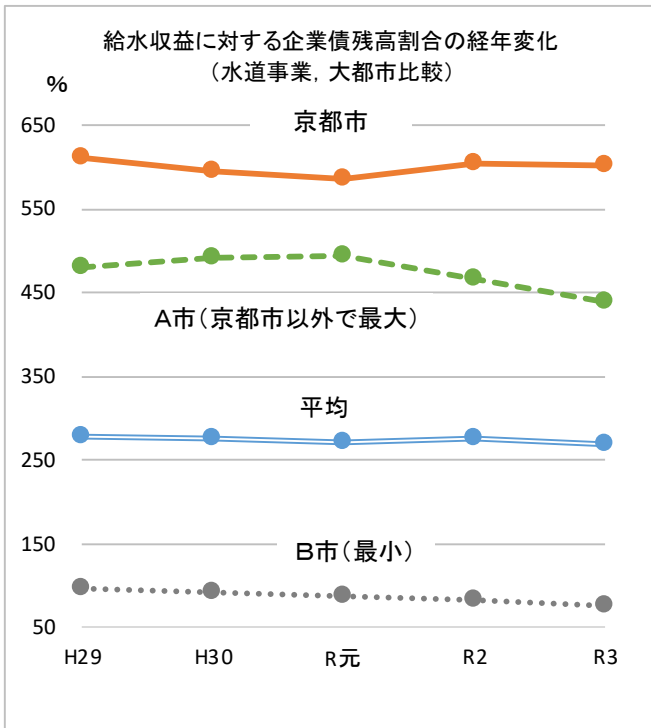
また、老朽化した管路の割合が高いことなどにより、他都市と比べ漏水量が多いことから「④施設の効率性」がやや低くなっていますが、配水管更新のスピードアップなどにより「③老朽化対策」は大都市の平均値を上回っています。

このような中、効率的な事業運営に努めることで、少ない「⑦費用」で水を供給することにより、安価な「⑥料金」を維持しており、大都市平均並みの「①収益性」を維持しています。



※ 大都市比較は、東京都及び政令指定都市（県が主に事業を行う千葉市、相模原市を除く。）計19都市で比較しました。

※ 水道事業及び公共下水道事業は、自然条件や地理的条件をはじめ、施設の設備状況などにより、経営環境が左右されることから、他都市比較や分析を行うに当たっては、地域特性や事業背景が異なることを考慮する必要があります。このため、偏差値による大都市比較は、あくまでも業務を総合的に判断するための材料の一つであり、都市間の優劣を競うことを目的とするものではありません。



<給水収益に対する企業債残高の割合>

給水収益に対する企業債残高の割合の推移を見ると、山間地域の水道事業を統合した平成29年度に上昇(悪化)した後は、この間の収益の確保及び企業債残高の縮減の取組により、徐々に低下(改善)してきていましたが、令和2年度には新型コロナウイルスの影響により再び上昇(悪化)しました。

数値自体は依然として、大都市と比較して高い水準にあります。今後も企業債残高の削減を進め、安定した事業経営に努めます。

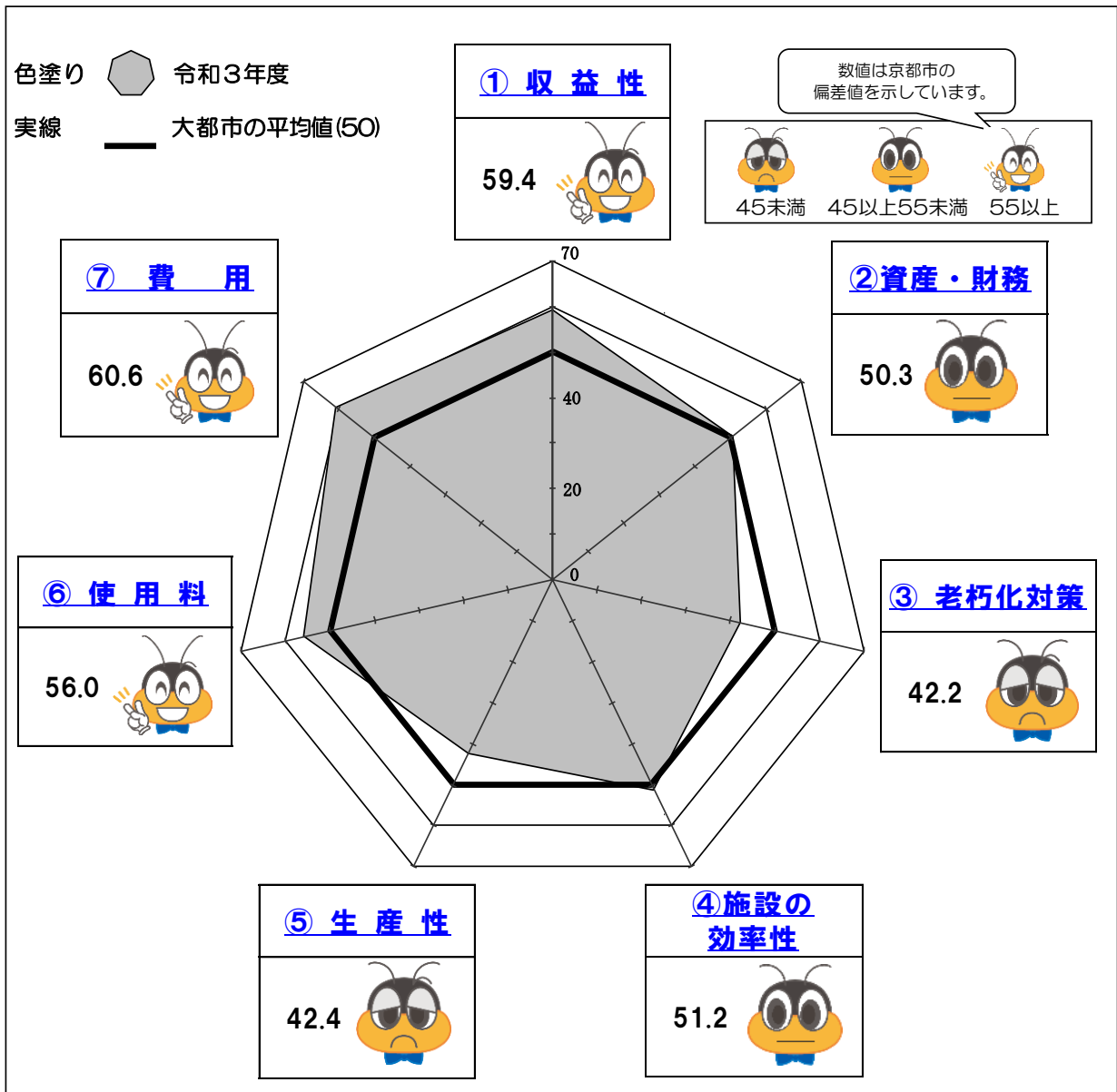
<職員1人当たり有収水量>

職員1人当たりの有収水量の推移を見ると、山間地域の水道事業を統合した平成29年度に低下(悪化)したものの、徐々に上昇(改善)してきています。

今後も、効率化推進計画を着実に推進し、更なる経営の効率化を進め、生産性の向上に努めていく必要があります。

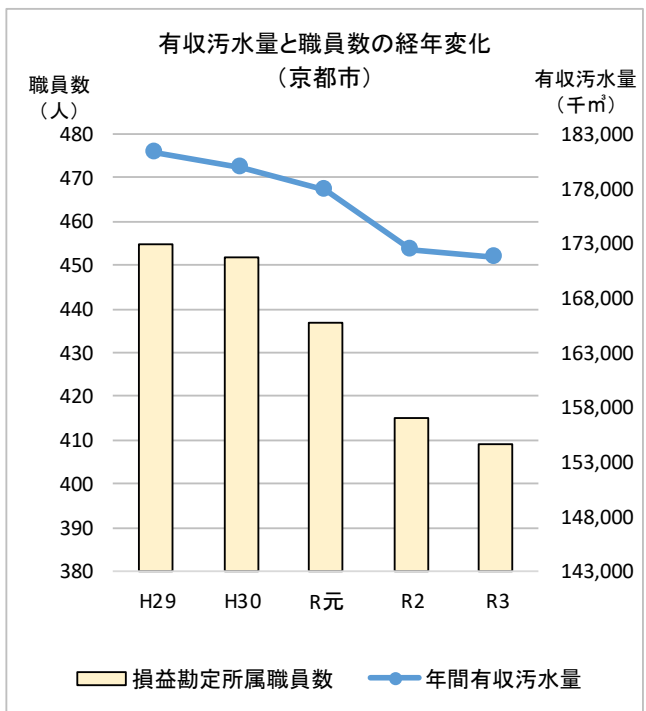
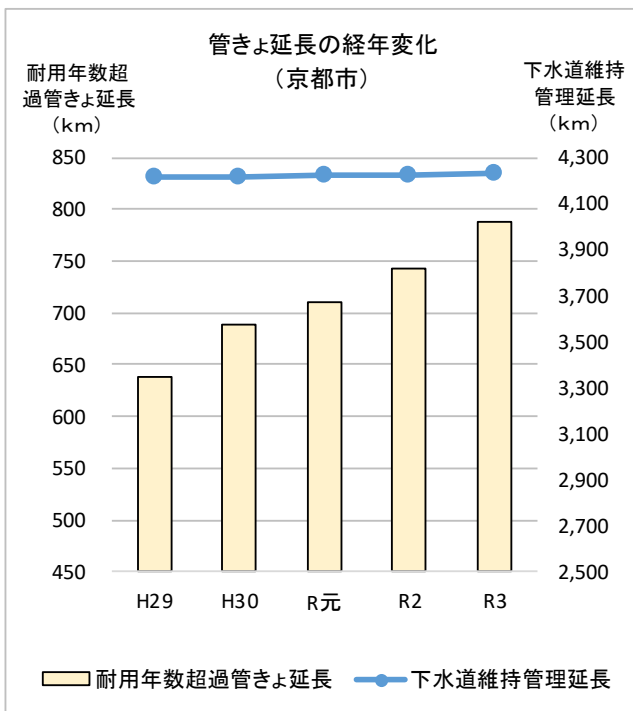
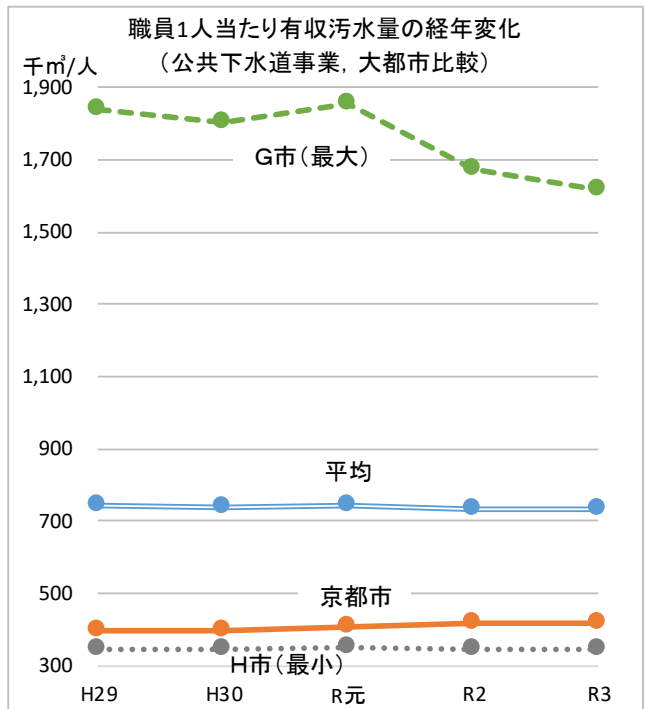
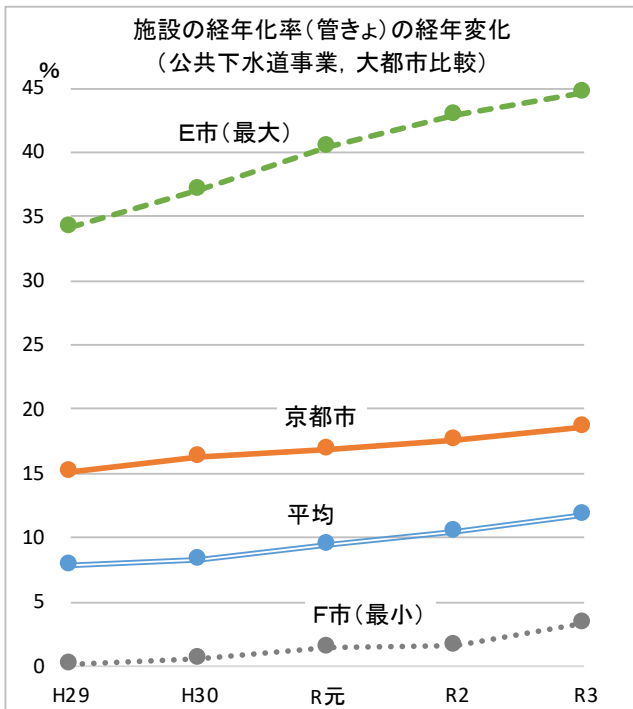
(3) 大都市比較から見る京都市の特徴及び中長期の課題（公共下水道事業）

偏差値による大都市比較は、京都市の公共下水道事業の特徴を表すものです。
 京都市の公共下水道事業は、これまでの経営効率化や財政基盤の強化、並びに施設規模の適正化などの取組により「②資産・財務」及び「④施設の効率性」は大都市平均並みとなっていますが、全国的に課題となっている下水道管路・施設の「③老朽化対策」については、事業開始からの経過年数が大都市平均を上回っていることなどにより低くなっています。
 また、他都市と比べ合流式下水道の割合が高く、下水道使用料の対象とならない雨水の流入量が多いことなどにより「⑤生産性」は低くなっています。
 このような中、効率的な事業運営に努めることで、少ない「⑦費用」で下水を処理することにより、安価な「⑥使用料」を維持しており、「①収益性」は大都市の平均値を上回っています。



※ 大都市比較は、東京都及び政令指定都市計 21 都市で比較しました。また、本市が平成 29 年度から山間地域の下水道事業（特定環境保全公共下水道事業）を公共下水道事業に経営統合したことを踏まえ、同様の経営統合を行っている他都市については、本市の指標と同様に、特定環境保全公共下水道事業を含めた数値で比較しています。

※ 水道事業及び公共下水道事業は、自然条件や地理的条件をはじめ、施設の設備状況などにより、経営環境が左右されることから、他都市比較や分析を行うに当たっては、地域特性や事業背景が異なることを考慮する必要があります。このため、偏差値による大都市比較は、あくまでも業務を総合的に判断するための材料の一つであり、都市間の優劣を競うことを目的とするものではありません。



<施設の経年化率(管きよ)>

施設の経年化率(管きよ)の推移を見ると、徐々にではあるものの、上昇傾向にあります。また、他都市平均と比較しても、老朽化した管きよが多いと言えます。

今後も布設替えや管更生を進めることで、優先度を踏まえた改築更新を推進していく必要があります。

<職員1人当たり有収汚水量>

職員1人当たりの有収汚水量の推移を見ると、他都市平均を下回ってはいるものの、徐々に上昇(改善)してきています。

今後も、効率化推進計画を着実に推進し、更なる経営の効率化を進め、生産性の向上に努めていく必要があります。

第3章 今後の事業運営について

令和3年度は、京都市上下水道局の経営戦略である「京(みやこ)の水ビジョン ーあすをつくるー」及びその前期5か年の実施計画「中期経営プラン(2018-2022)」の4年目として、プランに掲げた年次計画を着実に推進しました。

1年間の進捗に対する取組項目評価については、全体としては概ね順調に進捗したものの、一部の工事の進捗に遅れが生じたことなどから、30の取組項目のうちA評価(十分に達成されている)が25項目、B評価(かなり達成されている)が5項目、C評価(おおよそ達成されている)以下が0項目となりました。

経営指標評価については、水道事業と公共下水道事業のいずれでも⑤生産性が前年度比較で1ポイント以上改善したほか、公共下水道事業では、企業債残高の削減など財務体質の強化に努めたこと、降雨量の増加に伴い処理水量が増加したこと等により、①収益性、④施設の効率性、⑦費用が同様に改善しました。一方で、家庭用の使用水量の減少等により有収水量が減少したことにより、水道事業で④施設の効率性が前年度比較で1ポイント以上悪化しました。加えて、水道事業では、令和2年度に新型コロナの影響により悪化した「給水収益に対する企業債残高割合」について前年度比較で改善しているものの、他都市との比較では依然として高い水準にあり、企業債残高の削減等の更なる改善が必要となっています。また、公共下水道事業では「施設の経年化率(管きよ)」が徐々に上昇傾向にあり、他都市と比較しても老朽化した管きよが多いことから、優先度を踏まえた改築更新を進めていく必要があります。

財政面では、プランを上回る経費削減に努めるとともに、国からの交付金等を活用し、企業債発行を抑制できているものの、節水型社会の定着に加え、新型コロナの影響が継続していることにより、水道料金・下水道使用料収入が大きく減少しており、プランに掲げる目標利益の確保が困難となる大変厳しい状況です。

上下水道事業を取り巻く経営環境はこれまで以上に厳しいものとなっていますが、予算の執行に当たってはより一層の精査を行いながら経費削減に努め、効率的な事業運営を図ります。

また、事業を取り巻く諸課題に対応し、ビジョンに掲げる「目指す将来像」を実現するため、令和5年度からの新たな実施計画である次期中期経営プランの策定を進めるほか、近い将来に更新需要の増大が見込まれる水道・下水道管路について、長期見通しの作成に向けた更新需要・費用の予測手法の検討を実施するなど、持続可能な「レジリエント・シティ京都」の実現に向け、引き続き事業を着実に推進してまいります。



水道水をお届けして110年

令和4年（2022年）に京都市の水道事業は110年を迎えました。

本市の水道は、明治末期に行われた「京都市三大事業」(※)の1つとして創設し、

明治45年（1912年）4月1日に、

日本で最初の急速ろ過方式の浄水場である蹴上浄水場から、給水を開始しました。

その後、まちの発展とともに、水道施設の建設・拡張や更新・維持管理を行い、

現在は蹴上浄水場、松ヶ崎浄水場、新山科浄水場及び山間地域18か所の

浄水場から水道管を通じて、皆さまのもとに、

安全・安心な水道水をお届けしております。

水道事業は皆さまの暮らしと京都のまちの活動を支えるライフラインです。

京都市上下水道局は、これからも水道事業をしっかりと守り、未来につなげていきます。

※ 京都市三大事業～「第二琵琶湖疏水開削」、「上水道整備」、「道路拡築及び市電敷設」



市民の皆さまの御意見・御提案をお聞かせください

「京都市上下水道事業経営評価」を御覧いただきありがとうございました。京都市上下水道局では、皆さまからの貴重な御意見・御感想を基に、より分かりやすい経営評価への改善やより良い事業運営につなげていきたいと考えています。

経営評価をはじめ水道事業、公共下水道事業に関する御意見・御提案は、京都市上下水道局ホームページのご意見メールまでお寄せください。



京都市上下水道局 ご意見メール

検索





**令和4年度 京都市上下水道事業
経営評価（令和3年度事業）**

令和4年9月発行

京都市上下水道局 経営戦略室
〒601-8116 京都市南区上鳥羽鉾立町 11 番地 3
TEL 075-672-3114 FAX 075-682-2454
<https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/>
